

5.

6. 産業界のニーズと大学院、修了生の実態比較・考察

本調査研究では、共通の調査項目を設けて、大学院・修了生・産業界の認識に差異が生じるかどうかについても検証を行った。

アンケート調査では、各対象先に共通の質問項目を設けており、結果に差異が生じるかどうかを検証した。検証結果については、ヒアリング結果と合わせて考察を行った。

本調査研究では、調査の目的に照らし共通の調査項目（※以下を参照）を設けて、産業界・大学院・修了生の認識に差異が生じているかどうかについても検証を行った。

（※共通項目）

1. 習得する能力・スキル

産業界	大学院	修了生
企業が中核人材に求める能力・スキル	養成を重視している能力・スキル	大学院で習得できた能力・スキル

2. 教育課程・プログラム

産業界	大学院	修了生
大学院の教育課程に対する期待とその内容	カリキュラム内容で重視している内容	大学院選定の際に重視した教育課程

3. 教育科目

産業界	大学院	修了生
大学院で最低限教育してもらいたい科目	必修化すべきと考えている科目	大学院での学習が有効と考えている科目

4. 国際的な評価機関からの認証（AACSB、EFMD など）

産業界	大学院	修了生
国際的な機関からの認証有無を大学院の評価としているのか	国際的な機関からの認証に対する関心度合いと認証有無	大学院選定の際に認証有無を評価軸としているのか

5. ビジネススクールランキングに対する関心

産業界	大学院	修了生
ランキングは大学院の評価に繋がっているのか、ランキングを意識しているのか	ランキングは大学院の評価に繋がっていると考えているのか、ランキングを上げることに関心はあるか	就学時にランキングを評価軸としているのか

6.1. 習得する能力・スキル

企業が中核人材に対して重視している能力・スキルと 大学院が養成することを重視している能力・スキルで「乖離」がみられた項目	リーダーシップ 交渉力
企業が中核人材に対して重視している能力・スキルと 大学院が養成することを重視している能力・スキルが「同傾向」と読み取れた項目	分析思考能力

アンケート結果から、企業が中核人材に求める能力・スキルの要素と大学院で養成を重視している項目では一部かい離が生じていることが明らかになった。

企業は、中核人材に求める能力・スキルの要素として、リーダーシップや交渉力をあげているが、大学院で養成を重視している要素は問題解決力や分析思考能力などであり、両項目の重要度が高くはない。また、修了生が大学院で学んだ結果、習得できたと思う要素についても、交渉力、リーダーシップは他要素と比べて低い結果となっており、企業が求める能力・スキルの養成が進んでいない様子が見えてくる。

一方、分析思考能力は、中核人材に対する企業のニーズが高い項目であるが、国内大学院、修了生ともに比率が高い項目となっており、企業側が求める能力・スキルが国内大学院で習得できている現状が見えてくる。

図 6-1 能力・スキルに関するアンケート項目の回答比較

- 企業 (SAMT) : 「中核人材に対してどのような能力を重視しているか」に対する「重視+まあ重視」の回答割合
- 修了生 (SAMT) : 「大学院で学んだ結果、習得できたと思うか」に対する「習得できた+まあ習得できた」の回答割合
- 大学院 (SAMT) : 「どのような能力・スキルを養成することを重視しているか」に対する「重視+まあ重視」の回答割合

【企業】	【国内大学院】	【国内大修士生】			
n=597	n=105	n=1,063			
重視・計(%)	重視・計(%)	重視・計(%)			
コミュニケーション能力	91.0	問題解決力	97.1	経営戦略や人的資源管理, 会計, ファイナンス, テクノロジー・マネジメントなど企業経営に必要な一通りの理論や知識の習得	89.7
問題解決力	88.9	経営戦略や人的資源管理, 会計, ファイナンス, テクノロジー・マネジメントなど企業経営に必要な一通りの理論や知識の習得	96.2	分析思考能力	87.3
リーダーシップ	87.1	分析思考能力	94.3	戦略思考能力	83.8
交渉力	83.6	プレゼンテーション能力	90.5	問題解決力	81.4
実務経験・実績	82.6	コミュニケーション能力	89.5	プレゼンテーション能力	79.1
分析思考能力	80.4	戦略思考能力	87.6	コミュニケーション能力	72.3
組織マネジメント力(人的資源管理を含む)	77.2	創造性	81.9	情報統合能力	71.9
戦略思考能力	76.5	組織マネジメント力(人的資源管理を含む)	81.9	調査技能・評価能力	68.9
倫理的行動力	74.5	倫理的行動力	81.9	倫理的行動力	66.1
創造性	72.5	ビジネスモデル(ビジネスプラン)作成能力	79.0	ビジネスモデル(ビジネスプラン)作成能力	63.8
プレゼンテーション能力	69.7	情報統合能力	76.2	組織マネジメント力(人的資源管理を含む)	62.7
情報統合能力	67.8	調査技能・評価能力	76.2	リーダーシップ	59.2
経営戦略や人的資源管理, 会計, ファイナンス, テクノロジー・マネジメントなど企業経営に必要な一通りの理論や知識の習得	60.1	リーダーシップ	75.2	創造性	59.0
技術情報などを商品化・実用化・事業化につなげる能力(実現能力)	56.8	異文化への対応力(ネットワークを含む)	67.6	異文化への対応力(ネットワークを含む)	54.5
ビジネスモデル(ビジネスプラン)作成能力	55.9	技術情報などを商品化・実用化・事業化につなげる能力(実現能力)	64.8	交渉力	52.5
調査技能・評価能力	50.3	知財能力(マネージメント・活用力を含む)	59.0	知財能力(マネージメント・活用力を含む)	48.8
知財能力(マネージメント・活用力を含む)	50.1	知財能力(マネージメント・活用力を含む)	59.0	技術情報などを商品化・実用化・事業化につなげる能力(実現能力)	44.5
異文化への対応力(ネットワークを含む)	45.1	交渉力	55.2	システム設計力(デザインシンキング)	35.1
システム設計力(デザインシンキング)	31.8	システム設計力(デザインシンキング)	53.3	産学連携から施策等を構築する力	33.2
産学連携から施策等を構築する力	24.8	産学連携から施策等を構築する力	43.8	実務経験・実績	-
		実務経験・実績	-	実務経験・実績	-

産業界のニーズと大学院、修了生の実態比較、考察

ヒアリングの結果から、海外大学院の修了生の中には、修了校がリーダーシップに特化した科目を設定しており、リーダーシップ学を重点的に学んだことにより、有意義な学びを得られたとする修了生がみられた。また、企業や海外の製造拠点の長へのヒアリング結果でも、リーダーシップについて重視する声が聞かれた。

海外大修了生へのヒアリング結果
<ul style="list-style-type: none">・ リーダーシップは特に役立っている。国内ビジネススクールでは、リーダーシップで有名なスクールはまだ聞いたことがないと思う。経営者を目指すような人材にとっては重要な思考方法だと思う。
企業へのヒアリング結果
<ul style="list-style-type: none">・ 役員や経営層となる人間には、経営のための知識やリーダーシップなどのソフトスキルが必要であり、その習得には、ビジネススクールでの学習が最適であると考えている。背景として、当社の役員層は MBA ホルダーが多く、ビジネススクールの有用性を理解している人達が多いからである。民間の研修機関よりも、ビジネススクールの教員陣の方が、長年研鑽を積んできた基礎知識や洞察力があり、より実のある指導をしてもらえると考えている。・ 中核人材の能力開発では、基礎的な経営関連の知識やスキルを習得するだけでなく、リーダーシップも重視している。
海外の製造拠点の長へのヒアリング結果
<ul style="list-style-type: none">・ 海外拠点のリーダーとしては、全体を見てまとめていくリーダーシップが必要である。会社は、特定の分野（製品技術、生産技術、会計、人事など）に秀でた人物が絶対的に必要であり、そのような能力を持つ人間がいない限り、魅力的な会社にはならない。リーダーは、スキルや能力を持つ人々をまとめていく立場である。・ 戦略やファイナンスといったハードスキルは、実務でも自ら学んで身に着けることができる。どちらかというと、コミュニケーション能力や上述のようなリーダーシップの方が重要である。

6.2. 教育課程（プログラム）

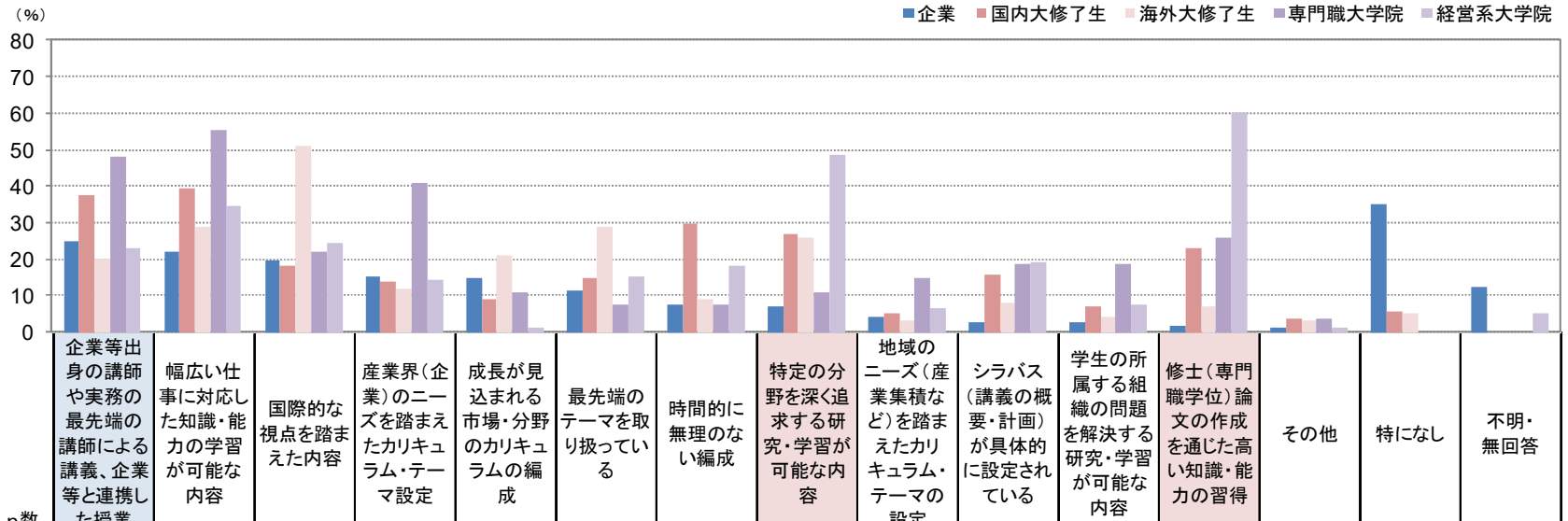
教育課程の編成に関して、企業と大学院で「乖離」がみられた項目	特定の分野を深く追求する研究・学習が可能な内容 修士（専門職学位）論文の作成を通じた高い知識・能力の習得
企業、大学院、修了生の中で重視している教育課程が「同傾向」とみられた項目	企業等出身の講師や実務の最先端講師による講義、企業と連携した授業

教育課程の編成に関するアンケート結果からは、企業、修了生、大学院が共に「企業等出身の講師や実務の最先端講師による講義、企業と連携した授業」に対する回答割合が高く、大学院と企業との連携を重視している傾向がうかがえる。

逆に、企業と大学院の間で重視している要素に差が開いた項目では、「特定の分野を深く追求する研究・学習が可能な内容」や「修士（専門職学位）論文の作成を通じた高い知識・能力の習得」があげられる。

図 6-2 重視している教育課程に関するアンケート回答比較

- 企業（MA）：国内の経営系大学院の教育課程の編成に対する期待
- 修了生（MA）：大学院を選定する際に教育課程で重視した点
- 大学院（MA）：教育課程の編成のうち、カリキュラム内容で重視している点



	n数	企業等出身の講師や実務の最先端の講師による講義、企業等と連携した授業	幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容	国際的な視点を踏まえた内容	産業界(企業)のニーズを踏まえたカリキュラム・テーマ設定	成長が見込まれる市場・分野のカリキュラムの編成	最先端のテーマを取り扱っている	時間的に無理のない編成	特定の分野を深く追求する研究・学習が可能な内容	地域のニーズ(産業界集積など)を踏まえたカリキュラム・テーマの設定	シラバス(講義の概要・計画)が具体的に設定されている	学生の所属する組織の問題を解決する研究・学習が可能な内容	修士(専門職学位)論文の作成を通じた高い知識・能力の習得	その他	特になし	不明・無回答
企業	597	24.8	22.1	19.4	15.1	14.9	11.6	7.7	6.9	4.4	2.7	2.5	1.8	1.0	35.2	12.6
大企業	307	31.6	24.8	21.5	19.9	18.6	15.3	9.4	8.1	4.2	3.6	4.6	1.6	1.3	28.7	9.1
中小企業	172	14.0	16.9	8.7	7.6	10.5	5.2	5.2	4.1	5.8	0.6	0.0	0.0	0.6	45.9	20.3
外資系企業	118	22.9	22.9	29.7	13.6	11.9	11.0	6.8	7.6	2.5	3.4	0.8	5.1	0.8	36.4	10.2
国内大修士生	1,067	37.5	39.2	18.2	13.7	9.1	14.9	29.8	26.9	4.9	15.6	7.1	22.8	3.7	5.4	-
海外大修士生	100	20.0	29.0	51.0	12.0	21.0	29.0	9.0	26.0	3.0	8.0	4.0	7.0	3.0	5.0	-
大学院	105	29.5	40.0	23.8	21.0	3.8	13.3	15.2	39.0	8.6	19.0	10.5	51.4	1.9	-	3.8
専門職大学院	27	48.1	55.6	22.2	40.7	11.1	7.4	7.4	11.1	14.8	18.5	18.5	25.9	3.7	-	0.0
経営系大学院	78	23.1	34.6	24.4	14.1	1.3	15.4	17.9	48.7	6.4	19.2	7.7	60.3	1.3	-	5.1

産業界のニーズと大学院、修了生の実態比較、考察

修了生のヒアリングからは、ロジカルシンキングやコミュニケーション能力などのソフトスキルの習得が役立っているとする意見が多かった。一方で、統計学やファイナンスなど特定科目を時間をかけて学べて良かったとする意見も多かった。経営人材には、会社経営に関する幅広い知識の習得が必要となるが、経営系大学院で学ぶことにより、ソフトスキルからファイナンスなどのハードスキルまで網羅的に学ぶことができる点が良かったとする意見が多かった。

修了生へのヒアリング結果

- ・ 現在の職種上、マーケティング知識や財務知識など個別の知識を活用できる場面はないが、ビジネススクールへの通学により、考え方の基礎が身についたと感じる場面が多い。また、文章の作成を含め、アウトプットする訓練も多く経験したため、アウトプットにも容易に対応できるようになった。
- ・ 科目としては、統計学と会計が良かった。多くのビジネスパーソンは、経理など特定の部署に配属されない限り、会計や統計学などの知識に触れる機会が少ないと思う。一度、統計学と会計の知識を体系的にじっくりと学べたことで、現在も役に立っていると感じている。

企業へのヒアリング結果

- ・ 大企業の場合、特定のロールや特定の製品を長く担当する傾向にあり、自身のロール以外の知識を得る機会が少ない。経営人材や職位の高いマネージャーになる場合には、アカウントティングやファイナンスの知識は、必要であり、その知識以外でもリーダーシップスキルや交渉力などのスキルが必要になってくる。このようなスキルを身に付けられるビジネススクールは重要であると考えている。

6.3. 教育科目

必修化すべきと考える教育科目に関して、企業と大学院で「乖離」がみられた項目	リーダーシップ マーケティングリサーチ
必修化すべきと考える教育科目に関して、企業と大学院で「同傾向」とみられた項目	組織マネジメント 財務会計

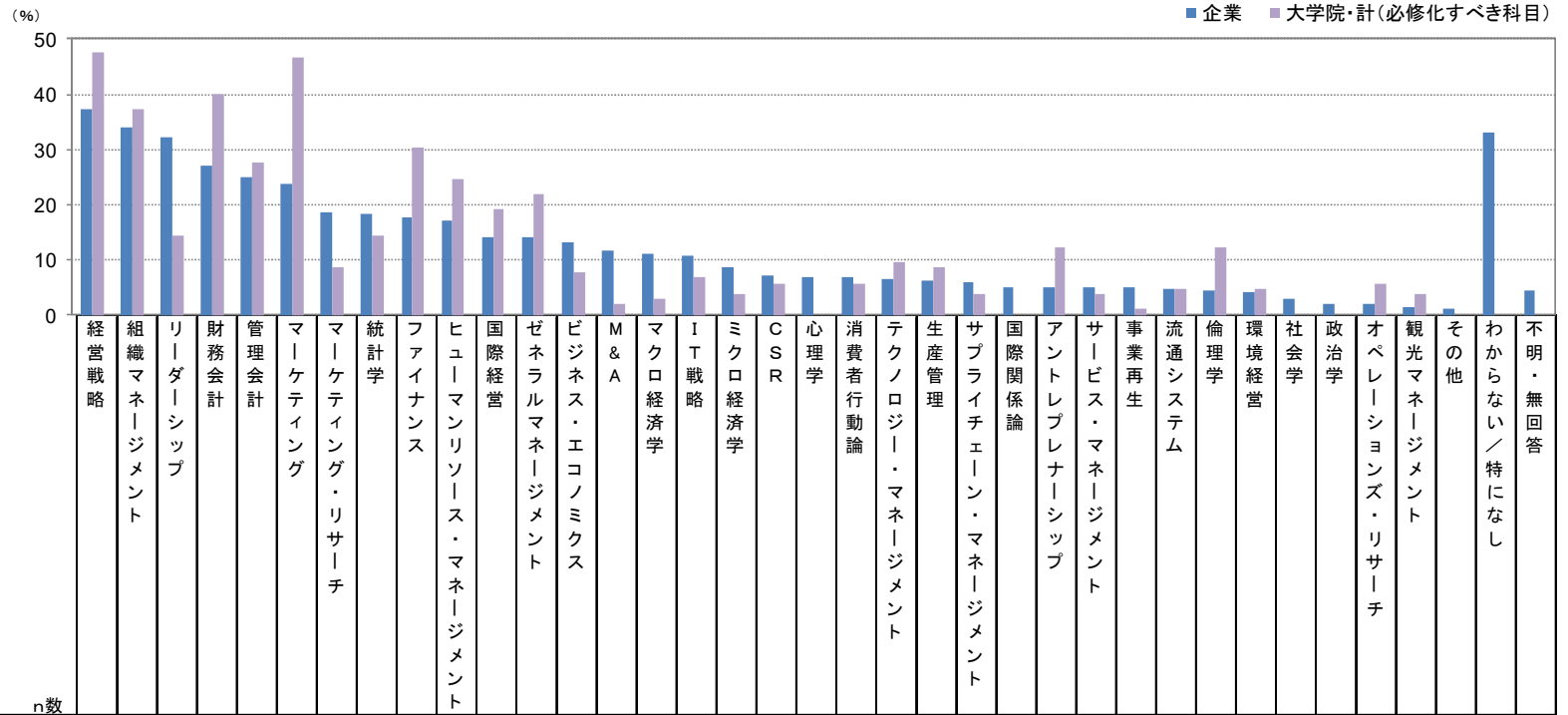
教育科目に関するアンケート結果からは、企業が大学院に最低限教育してもらいたい科目と大学院が必修化すべきと考える科目に差異がある点が見受けられる。特に、「リーダーシップ」「マーケティングリサーチ」ではその差異が大きい。「リーダーシップ」「マーケティングリサーチ」は、企業では最低限教育してもらいたい科目の上位にあげられているが、大学院側では必修化すべき科目として上位にあげられていない。

逆に、「組織マネジメント」「財務会計」は大学院と企業がそれぞれ重視している傾向がみられた。

産業界のニーズと大学院、修了生の実態比較、考察

図 6-3 教育科目に関するアンケート回答比較

- 企業（MA）：大学院で最低限教育してもらいたい科目
- 大学院（MA）：経営系専門職大学院・経営系大学院の授業科目としての見解（必修化すべき科目）



	n数																																								
	企業	大企業	中小企業	外資系企業	大学院・計(必修化すべき科目)	専門職大学院	経営系大学院																																		
経営戦略	597	37.2	34.0	32.2	27.1	25.0	23.8	18.6	18.4	17.6	17.1	13.9	13.9	13.2	11.6	10.9	10.7	8.7	7.2	6.9	6.7	6.4	6.2	6.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.4	4.0	2.8	2.0	1.8	1.3	1.0	33.0	4.4			
組織マネージメント	307	42.0	42.7	36.2	30.0	29.3	29.0	22.1	22.1	20.8	21.8	15.0	18.2	15.0	15.3	13.4	12.4	10.4	9.1	6.2	6.5	8.1	5.9	8.5	5.2	5.2	5.9	6.5	5.5	3.9	3.6	2.9	2.6	2.6	1.0	0.7	29.3	2.3			
リーダーシップ	172	24.4	17.4	22.7	19.8	15.7	14.0	12.2	12.2	5.8	5.8	6.4	10.5	5.2	6.4	7.0	5.2	5.2	4.7	4.7	7.0	2.3	5.2	1.2	2.9	3.5	3.5	2.3	3.5	4.1	5.2	1.2	1.2	1.2	1.7	1.2	43.0	8.7			
財務会計	118	43.2	35.6	35.6	30.5	27.1	24.6	18.6	17.8	26.3	21.2	22.0	7.6	20.3	9.3	10.2	14.4	9.3	5.9	11.9	6.8	7.6	8.5	6.8	6.8	5.9	4.2	4.2	4.2	5.9	3.4	5.1	1.7	0.8	1.7	1.7	28.0	3.4			
管理会計	105	47.6	37.1	14.3	40.0	27.6	46.7	8.6	14.3	30.5	24.8	19.0	21.9	7.6	1.9	2.9	6.7	3.8	5.7	0.0	5.7	9.5	8.6	3.8	0.0	12.4	3.8	1.0	4.8	12.4	4.8	0.0	0.0	5.7	3.8						
マーケティング・リサーチ	27	66.7	48.1	22.2	51.9	33.3	66.7	3.7	18.5	55.6	37.0	11.1	29.6	7.4	0.0	7.4	11.1	3.7	7.4	0.0	3.7	7.4	3.7	3.7	0.0	14.8	0.0	0.0	0.0	29.6	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0						
ファイナンス	78	41.0	33.3	11.5	35.9	25.6	39.7	10.3	12.8	21.8	20.5	21.8	19.2	7.7	2.6	1.3	5.1	3.8	5.1	0.0	6.4	10.3	10.3	3.8	0.0	11.5	5.1	1.3	6.4	6.4	5.1	0.0	0.0	6.4	5.1						
ヒューマンリソース・マネージメント																																									
国際経営																																									
ゼネラルマネージメント																																									
ビジネス・エコノミクス																																									
M & A																																									
マクロ経済学																																									
IT戦略																																									
マイクロ経済学																																									
CSR																																									
心理学																																									
消費者行動論																																									
テクノロジー・マネージメント																																									
生産管理																																									
サプライチェーン・マネージメント																																									
国際関係論																																									
アントレプレナーシップ																																									
サービス・マネージメント																																									
事業再生																																									
流通システム																																									
倫理学																																									
環境経営																																									
社会学																																									
政治学																																									
オペレーションズ・リサーチ																																									
観光マネージメント																																									
その他																																									
わからない/特になし																																									
不明・無回答																																									

産業界のニーズと大学院、修了生の実態比較、考察

修了生へのヒアリングでは、大学院での学習が有効だと考えられる科目として、「財務会計」「統計学」があげられた。また、企業でのヒアリングでも「財務会計」は重要科目とする意見が多く聞かれた。特に大企業では、各社員に割り当てられたロール（担当製品や担当職種）が在職中に変わることがほぼなく、社内教育（OJT等）だけでは自分自身のロール以外の知識やスキルを習得することが難しい傾向にある。マネージャー以上の経営層は、財務会計や人事をはじめとする会社経営に関する幅広い知識が必要になるため、「財務会計」を経営系大学院で学ぶことは有用であるとする意見が聞かれた。「財務会計」といった知識であれば、単発的な研修で学ぶことも可能であるが、経営系大学院での学びを推奨している企業からは経営系大学院で学ぶことにより、学問的な研究を続けている深い洞察力を持った教員から教えてもらうことにより、「リーダーシップ」や「コミュニケーション能力」「ロジカルシンキング」といったスキルも併せて習得できることが推奨の理由として挙げられた。修了生からは、「財務会計」を含めた科目をケースメソッドで学ぶことにより、より実践的な学びを得ることができた、とする声も聞かれた。

修了生や企業へのヒアリングの結果、「財務会計」といった知識の習得がベースになる科目においても、経営系大学院では、より実践的な学びや、その他のスキルが併せて習得できる点が利点としてあげられる。

修了生へのヒアリング結果

- ・ 現在の職種上、マーケティング知識や財務知識など個別の知識を活用できる場面はないが、ビジネススクールへの通学により、考え方の基礎が身についたと感じる場面が多い。
- ・ 財務会計といった知識を習得できたことは良かった。研究開発を行う上でも、事業化や採算性の視点が重要であり、財務会計知識を習得したことにより、的確な判断を下せるようになったと感じている。その他、特定の知識によらない、考え方の土台が身についた。戦略的思考方法はビジネスの様々な局面で役に立っている。

企業へのヒアリング結果

- ・ ただ単に知識を習得することは、ビジネススクール以外でのスクールで習得が可能である。ビジネススクールで学ぶ意義は、教員の質にある。教員の研究背景や卓越した授業方法により、社員を授業に巻き込み、インパクトを与えてくれることを期待している。

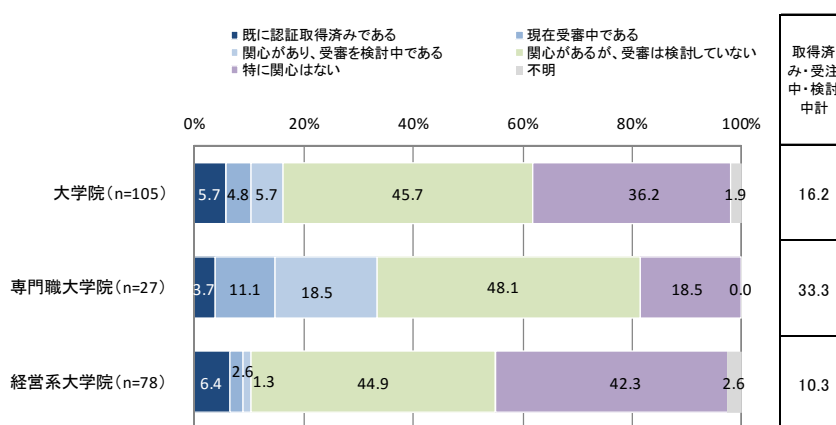
6.4. 国際的な評価機関からの認証（AACSB、EFMD など）

アンケート結果では国際認証の取得を参考にしている企業は2%にとどまる。しかし、国内大学院は「関心がある」「認証取得済み」のいずれかでの回答の合計は60%以上であった。

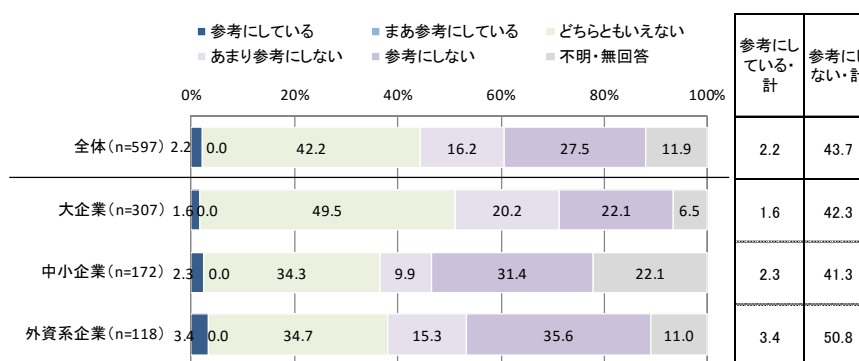
国内外大学院の修了生では、海外大学院修了生の方が国際認証の取得を重視している。

国際的な認証機関からの認証取得に関するアンケート結果では、専門職大学院を含む経営系大学院では「関心がある」「認証取得済み」のいずれかでの回答が60%以上であることにに対し、企業では、「参考にしている」と答えた企業は1.7%にとどまっている。また、修了生のアンケート結果では就学時に「重視した」と答えた割合は、国内大学院修了生が13%、海外大学院修了生が46%であり、海外大修了生は国際認証の取得を重視している傾向がうかがえる。

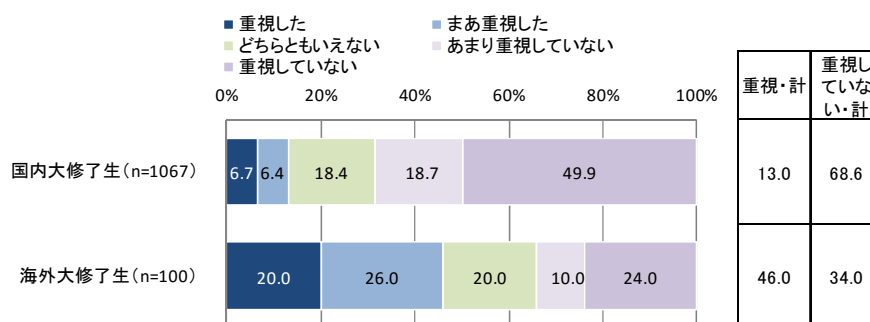
図 6-4 国際的な評価機関からの認証に関するアンケート回答比較
【大学院】



【企業】



【修了生】



産業界のニーズと大学院、修了生の実態比較、考察

アンケート結果では企業の関心が低い結果となっているが、ヒアリングを行った企業は、認証取得を重視する企業も多く、以下のような理由が聞かれた。

企業へのヒアリング結果

- ・ 国際認証は一定の基準であり、国際認証を取得している大学院は、注目に値する。教育内容もグローバルスタンダードを参考にして定めているのだろうと思われ、人材育成担当としては安心感がある。
- ・ 海外拠点の人事と情報交換や報告を行う際には、国際認証を取得しているビジネススクールやランキングに掲載されているビジネススクールについて話す方が効率的である。そのため、認証やランキングを取得している方が魅力的ではある。

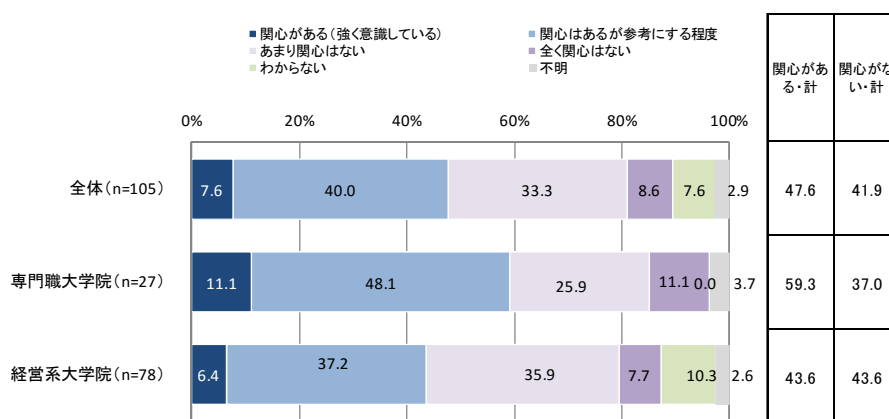
6.5. ビジネススクールランキングに対する関心

企業へのアンケート結果では、国際認証よりもビジネススクールランキングに対して高い関心がある。国内大学院へのヒアリング結果では、日本人学生への教育を重点に据える大学院もあり、必ずしもグローバルにアピールできるビジネススクールランキングを重視しない大学院もある。

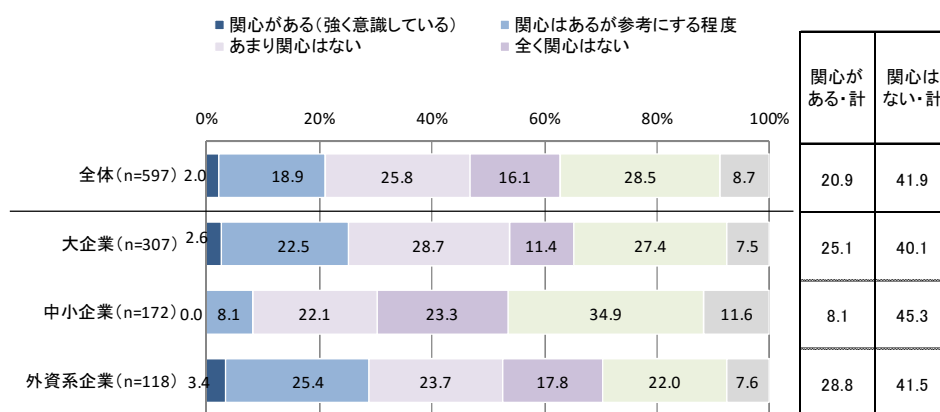
ビジネススクールランキングに対する関心を問うアンケート結果では、専門職大学院を含む経営系大学院は44.1%が「関心がある」、企業では21%が「関心がある」と回答した。修了生で就学時にランキングを参考にした比率は、国内大学院修了生が28%、海外大学院修了生が80%であった。

企業では、国際認証に比べビジネススクールランキングに対する関心がより高い傾向がみられた。

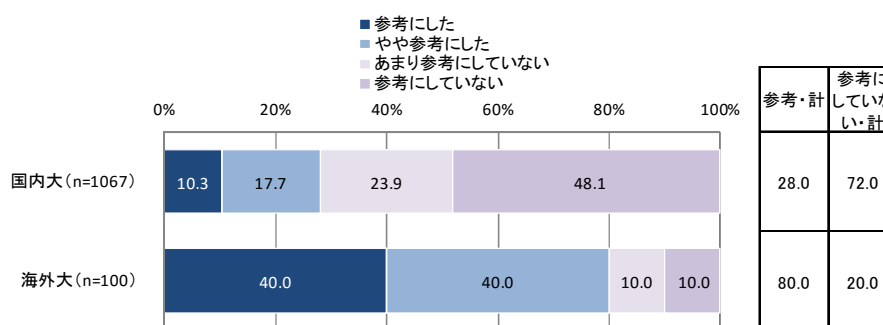
図 6-5 ビジネススクールランキングに対する関心のアンケート回答比較
【国内大学院】



【企業】



【修了生】



産業界のニーズと大学院、修了生の実態比較、考察

国内大学院へのヒアリング結果からは、日本の社会人を対象に学びを提供することを目的としている大学院もあり、必ずしもグローバルにアピールできるビジネススクールランキングを重視していない大学院も見られた。また、ランキングに関心のある大学院においても、まずは国際認証を取得し、土台を整えることが必要であると回答する大学院もあった。

国内大学院へのヒアリング結果

- ・ 当校では、日本の学生が当校の特徴や教育内容に着目し、学びたいと思ってもらえれば良いと考えていることから、グローバルにアピールできるような国際認証取得の必要性を特に捉えていない。同様にビジネススクールランキングについても関心はあまりない。
- ・ 将来的にはビジネススクールランキングにもランキングされるようになりたいものの、国際認証の取得維持でまずは運営の地盤を整えていきたいと考えている。

7. 国内外の経営系大学院の比較・考察

国内外の大学院および修了生へのアンケート調査とヒアリング調査の結果を比較し、国内外の経営系大学院の実態の差異として読み取れるものについて検証を行った。海外大学院のアンケート回答は、件数が少ないため、参考として比較している。ヒアリング調査での結果とあわせて、本調査で見て取れた傾向をまとめている。

国内大学院と海外大学院を比較した場合に、以下の項目で差異がみられた。

1. 大学院と企業の連携方法（産業界からのニーズ取得方法）
2. 教員への評価方法に大きな差異が見られる。

以下にこの2点の検証内容を示す。

7.1. 大学院と企業の連携（産業界のニーズ取得方法）

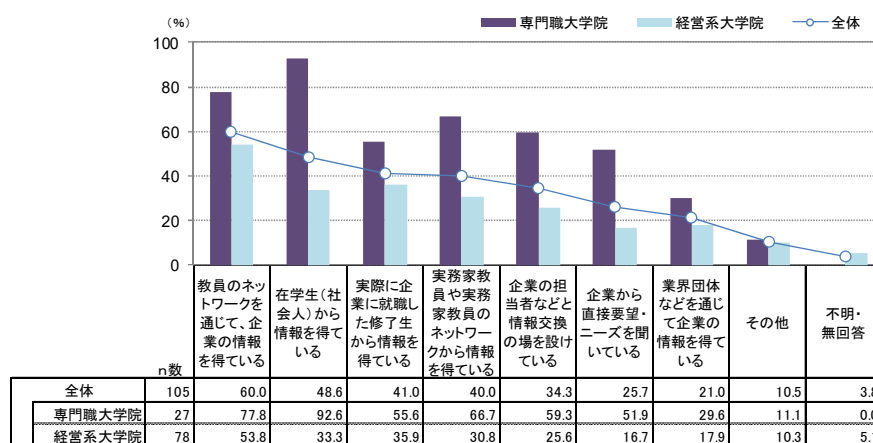
国内大学院	教員のネットワーク、在学生（社会人）などの大学院関係者
海外大学院	企業に就職した修了生、企業担当者など大学院の外部と直接コンタクト

産業界のニーズを把握する方法に関するアンケート結果では、国内大学院と海外大学院で上位項目の傾向が異なる。

国内大学院は、「教員のネットワーク」や「在学生（社会人）」など大学院の関係者から情報を得ている傾向にあるが、海外大学院では「企業に就職した修了生」や「企業の担当者」など大学院の外部から直接要望・ニーズを聞いている傾向にある。

Q. 産業界（企業など）からのニーズはどのようにして把握していますか。（MA）

【国内大学院】



【海外大学院】

	n
実際に企業に就職した修了生から情報を得ている	8
企業の担当者などと情報交換の場を設けている	7
企業から直接要望・ニーズを聞いている	7
教員のネットワークを通じて、企業の情報を得ている	4
業界団体などを通じて企業の情報を得ている	4
実務家教員や実務家教員のネットワークから情報を得ている	4
在学生（社会人）から情報を得ている	3
その他	1
無回答	1
全体	10

海外大学院へのヒアリング結果からは、企業担当者との交流を重視している様子がうかがえ、主に以下のような機会を設けていることが分かった。

- ① 大学院が企業担当者とのアドバイザーボードを設立
- ② 企業担当者がゲストスピーカーとして講義に参加
- ③ 教員が企業のコンサルタントとして企業活動に関わる
- ④ 学生自らが企業担当者とのディスカッションする機会をオーガナイズし、イベントを開催

⑤ アルumni活動による交流

- アルumni会員からの企業事例の提供
- 修了生が学生の相談役として活躍
- 学長自らが修了生を訪問し、お互いの状況についてディスカッションするイベントを開催
- アルumni全体で年に数回のイベントを開催

特にアルumniによる活動は重視している大学院が多く、大学院がアルumniの運営資金と人員を確保し、積極的に支援している。海外大学院修了生へのヒアリング結果でも、以下の通り、在学中に修了生と接する機会が多かったとする意見が多く聞かれ、海外大学院はアルumniや修了生との結びつきを非常に重要視している様子が見えてくる。

海外大学院修了生へのヒアリング結果

- ・ 学生の発表会の際にも修了生がレビュアーとして参加していた。修了生のレビューは「Devil's Advocate」と呼ばれ、大変厳しいものであったが、指摘内容は実務での懸念事項を投影しており、非常に有意義であった。
- ・ 在学中には、発表内容や就職先について修了生がアドバイスをしてくれる機会が多くあった。また、リユニオンのイベントも毎年あり、同窓会組織が充実していたと思う。
- ・ 修了生との結びつきが強く、修了生によるメンター制度があった。在学中の課題や、修了後のキャリアプランについて修了生にアドバイスをもらうことができ、非常に有意義な活動であると感じられた。なお、修了生はボランティアで活動している。

ヒアリングの結果から、企業側が積極的に海外大学院と関わる理由として、以下のような理由が挙げられた。

- ① ビジネススクールを修了した優れた人材を採用することができる。
- ② 大学院が持つ優れた研究や理論などを学ぶことができ、それを企業の経営に活かすことができる。
- ③ 優秀な学生からビジネスのアイデアを収集することができる。

特に、③については、修了生へのヒアリングで事例が挙げられた。

海外大学院修了生へのヒアリング結果

企業の新規事業や新製品の展開方法について、学生がプランを練って発表するという場面が多くあり、学生や学校側は、企業の実態を把握することができ、実際のビジネス展開に携わりながら学習できるという利点がある。学校側だけでなく、企業側にとっても、優秀な学生が考えるアイデアを手に入れることができ、お互いに利益のある関係性であったと思う。

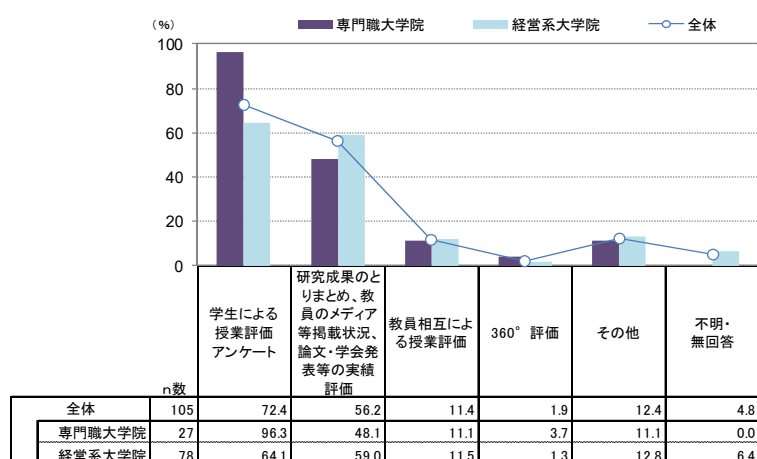
7.2. 教員評価の方法

国内大学院	「学生によるアンケート」を重視している。
海外大学院	「学生によるアンケート」を重視し、結果を活用している。

教員の評価方法に関するアンケート結果では、国内大学院、海外大学院ともに「学生による授業評価アンケート」が主体となっている。そのヒアリング結果から、海外大学院では学生アンケートを非常に重視している様子がうかがえた。

Q. 教員の評価方法で特に重視しているものを3つまでお答えください。

【国内大】



【海外大】

	n
学生による授業評価アンケート	8
研究成果のとりまとめ、教員のメディア等掲載状況、論文・学会発表等の実績評価	5
教員相互による授業評価	3
360° 評価	0
その他	1
無回答	2
全体	10

海外大学院では、アンケートは大学院側が行うことに加えて、教員自らが行うこともある。その内容は選択式ではなく、記述式が主体となっている場合もあった。

アンケート結果を基に教員の評価が厳格に行われ、アンケート評価の悪い状態が続く教員は、処遇に反映されるケースもみられた。

海外大学院へのヒアリング結果	
・	評価では、学生からの評価も重要である。学生にアンケートを取り、クラスの満足度をランキング化している。リーダークラスは、その結果を見て改善策を話合っている。
・	教員の評価は、学生からの評価が全てである。Dean が教員を評価することは行わない。学生からの評価は、アンケート形式による定量的な評価であり、得点が低い教員は、別途研修会に参加させるなどして改善を図っている。

海外大学院修了生へのヒアリング結果

- ・ 学生アンケートは頻繁に行われていた。選択式ではなく、記述式のアンケートが主体であった。アンケート結果で教員は厳しく査定されており、教員の質向上に寄与していたと考える。学生アンケートは、大学として実施するアンケートの他、教員が独自に実施するケースもあった。非常に細かい内容のアンケートになっており、アンケートの目的として、教員評価や授業評価を得ることの他にも、学生の理解度チェックも兼ねていた。
- ・ 教員に対する評価はシビアであり、学生が教員の評価を行う。アンケートが評価の主体となるが、学校側は評価の低い教員に対して厳しい対応をとっていた。教員も競争環境にあり、自分自身を切磋していたと思う。
- ・ 授業評価を行う学生アンケートが定期的に行われており、記述式の内容がメインであった。学生アンケートの評価は重要視されており、評価があまりに悪い教員は退任させられることもあった。

7.3. 産業界のニーズと大学院、修了生の実態比較・考察

5章にて比較を行った項目について、国内大学院と海外大学院についても比較を実施した。

■習得する能力・スキル（養成を重視している能力・スキル）

国内大学院	問題解決力、経営戦略や人的資源管理、会計、ファイナンス、テクノロジー・マネジメントなど企業経営に必要な一通りの理論や知識の習得、分析思考能力
海外大学院	問題解決力、分析思考能力、倫理的行動力

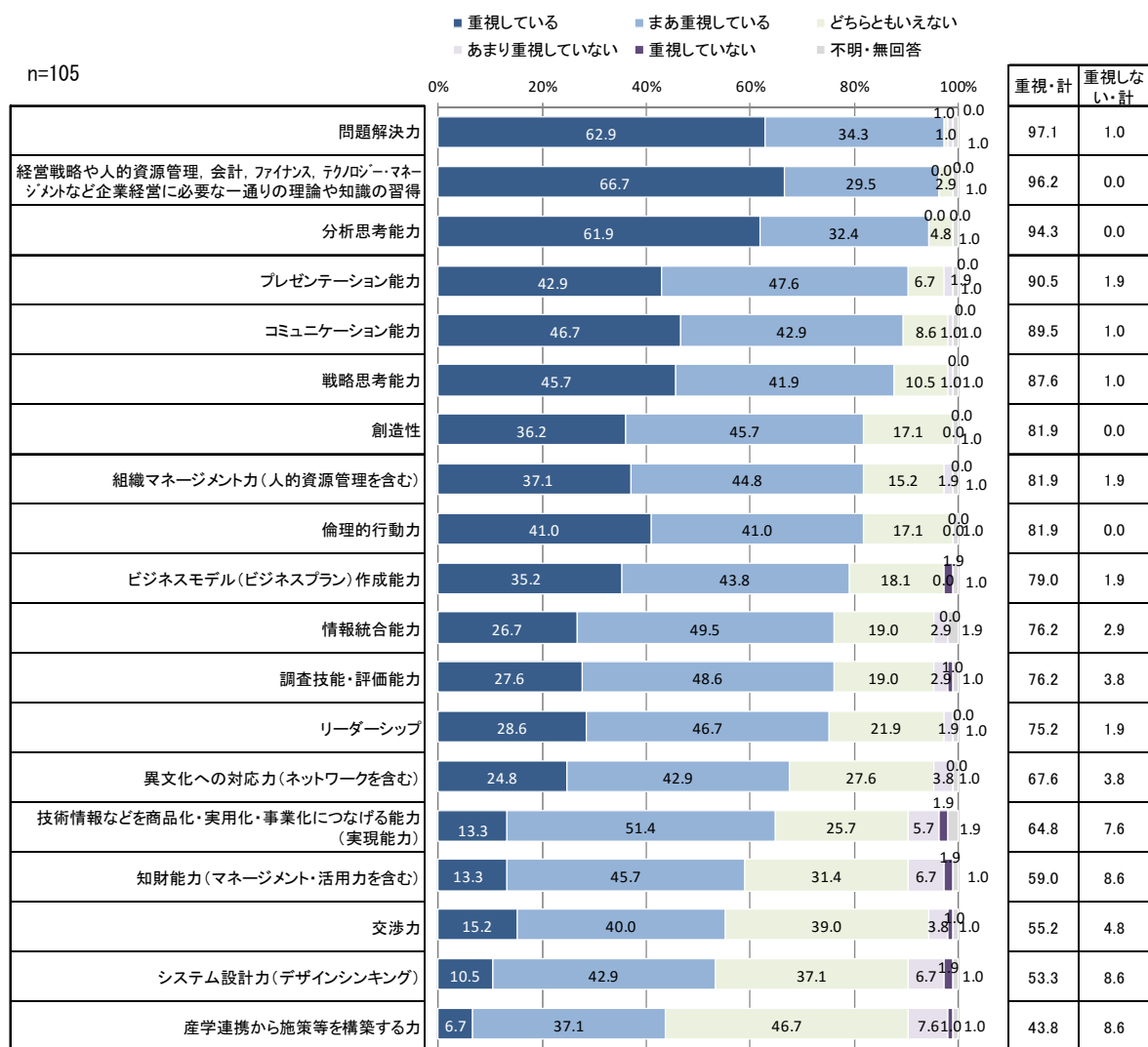
養成することを重視している能力・スキルに関するアンケート結果の上位3項目のうち、「問題解決力」と「分析思考能力」の2項目は国内大学院と海外大学院の双方が重視している。

国内大学院では「経営戦略や人的資源管理、会計、ファイナンス、テクノロジー・マネジメントなど企業経営に必要な一通りの理論や知識の習得」を重視している一方で、海外大学院は「倫理的行動力」を重視している傾向がみられる。

国内外の経営系大学院の比較・考察

Q. 貴経営系専門職大学院/経営系大学院では、どのような能力・スキルを養成することを重視していますか。(SA)

【国内大学院】

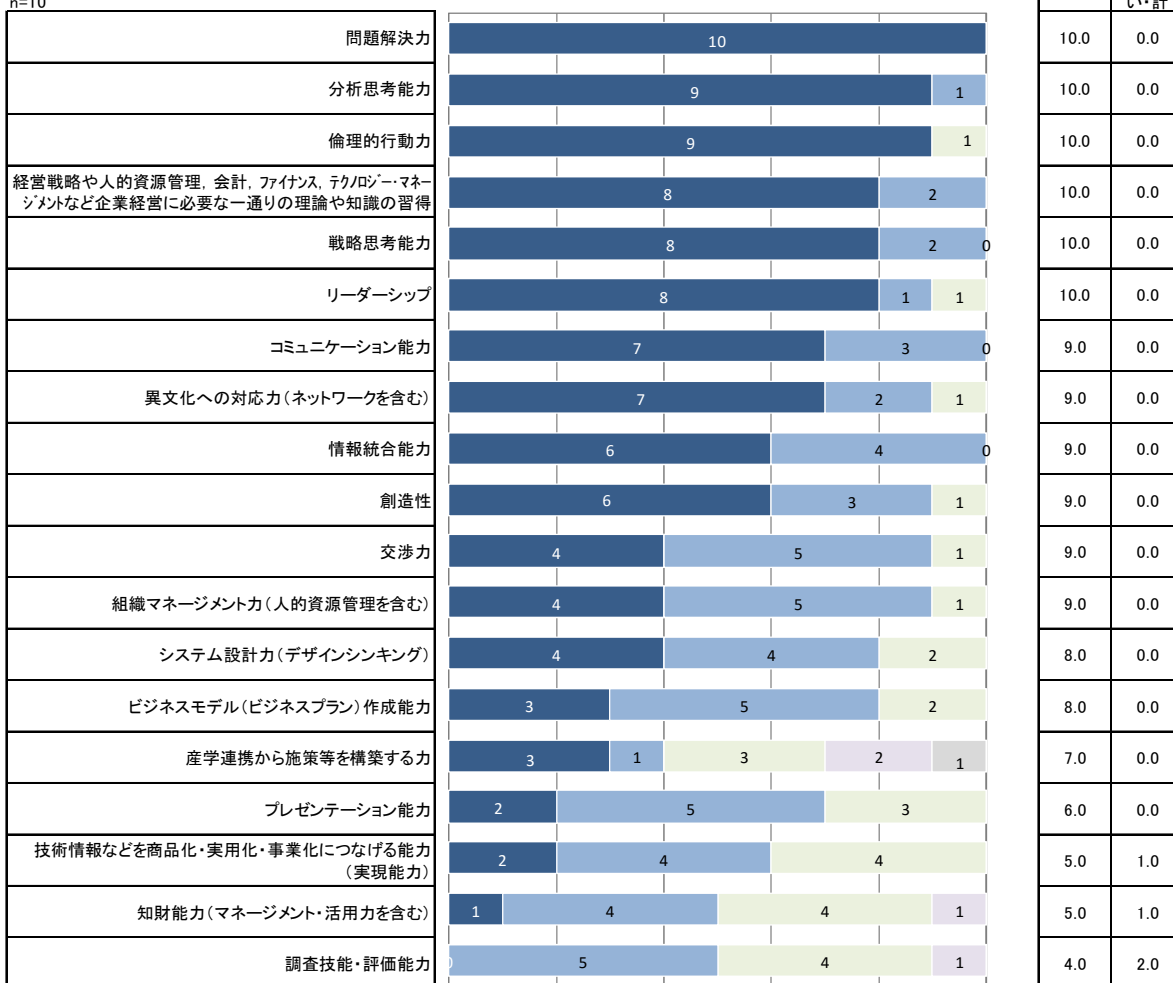


国内外の経営系大学院の比較・考察

【海外大学院】

- 重視している
- まあ重視している
- どちらともいえない
- あまり重視していない
- 重視していない
- 不明・無回答

n=10



アメリカの大学院でのヒアリングでも「倫理観を重視しており、倫理的な思考能力を持っていることも入学時の要件として重視している。」とのコメントが得られた。「倫理的行動力」を重視する理由として、MBA 取得者が起こした過去の金融不祥事が背景として挙げられる。

■教育課程・プログラム（カリキュラムで重視している内容）

国内大学院	専門職大学院は、幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容を重視している。 経営系大学院は、修士（専門職学位）論文の作成を通じた教育効果の向上を目的としている。
海外大学院	幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容 国際的な視点を踏まえた内容 成長が見込まれる市場・分野のカリキュラムの編成

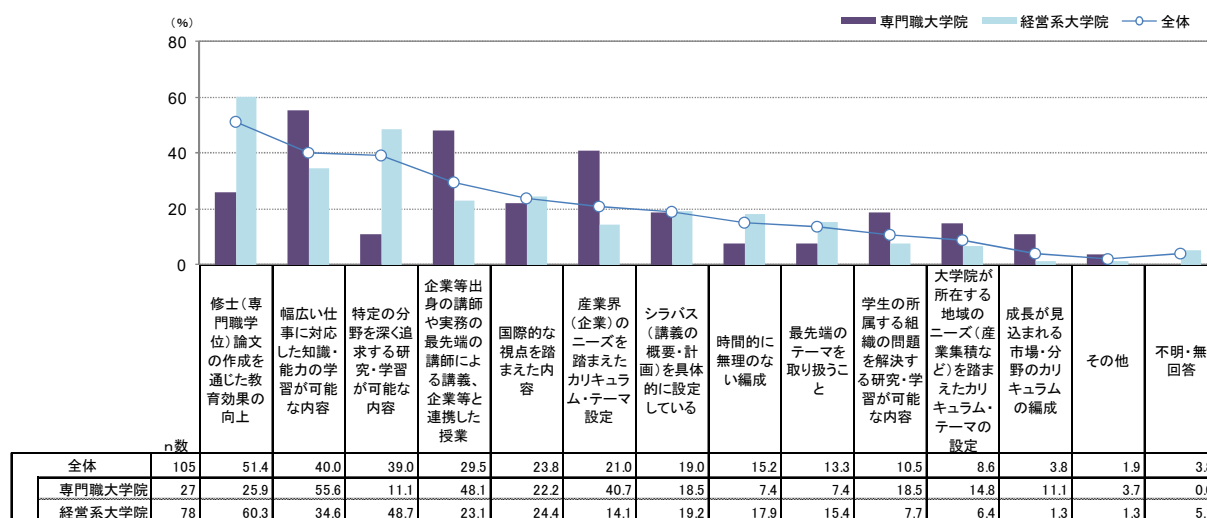
海外大学院は「幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容」「国際的な視点を踏まえた内容」「成長が見込まれる市場・分野のカリキュラムの編成」を重視する傾向が強い。

一方、国内大学院では「幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容」「修士（専門職学位）論文の作成を通じた教育効果の向上」を重視している傾向にある。

Q. 教育課程（プログラム）の編成のうち、カリキュラム内容で重視している点は何ですか。

特に重視している点を3つまでお選びください。

【国内大学院】



【海外大学院】

	n
幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容	5
国際的な視点を踏まえた内容	5
成長が見込まれる市場・分野のカリキュラムの編成	4
企業等出身の講師や実務の最先端の講師による講義、企業等と連携した授業	3
産業界（企業）のニーズを踏まえたカリキュラム・テーマ設定	3
最先端のテーマを取り扱うこと	2
修士（専門職学位）論文の作成を通じた教育効果の向上	2
特定の分野を深く追求する研究・学習が可能な内容	1
時間的に無理のない編成	1
大学院が所在する地域のニーズ（産業集積など）を踏まえたカリキュラム・テーマの設定	1
学生の所属する組織の問題を解決する研究・学習が可能な内容	0
シラバス（講義の概要・計画）を具体的に設定している	0
その他	0
無回答	2
全体	10

国内外の経営系大学院の比較・考察

本調査の対象先が、グローバルビジネスランキングにランキングしている大学院であることも結果に影響を与えてはいるが、ヒアリング結果においても、グローバルで活躍できる人材を育成するための教育課程を編成している大学院が多かった。

■教育科目（必修化すべきと考えている科目）

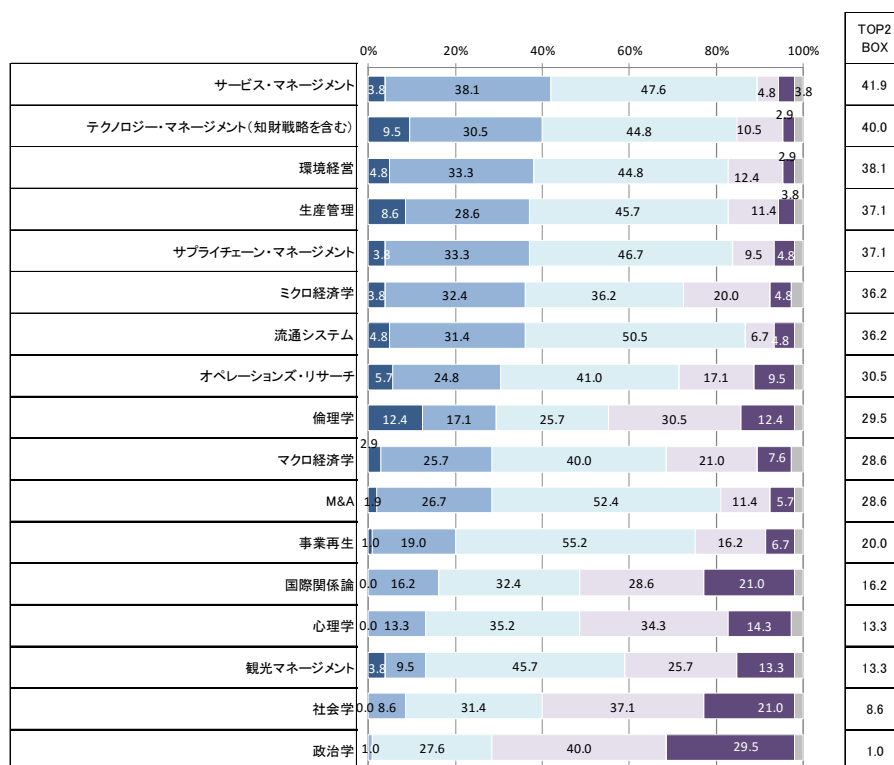
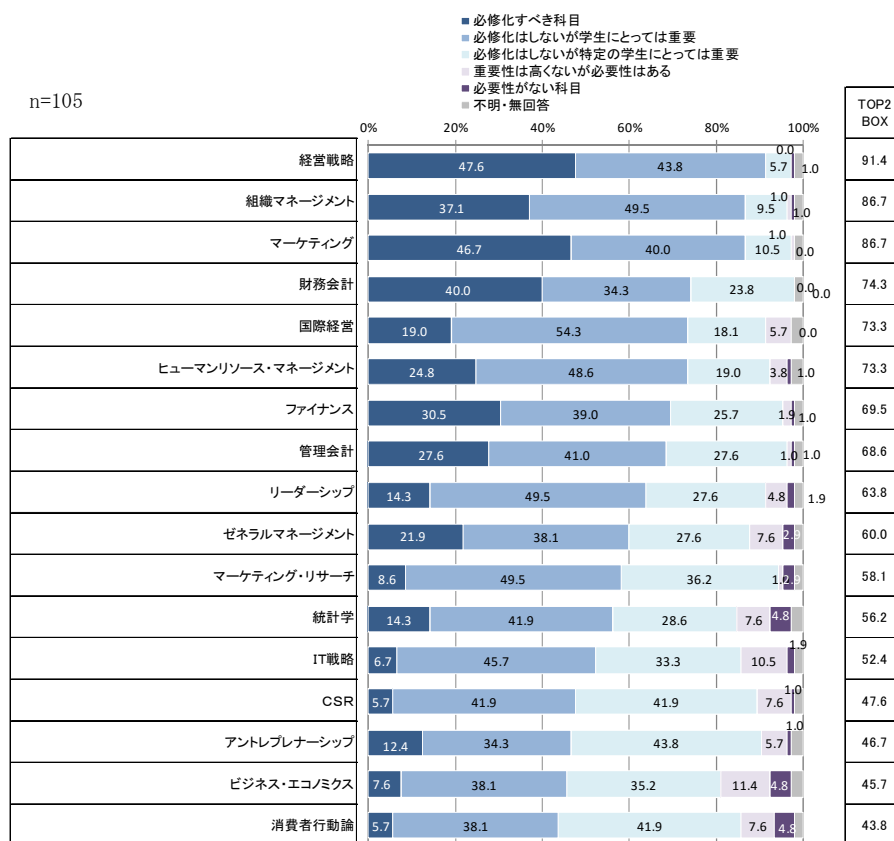
国内大学院	経営戦略、マーケティング、財務会計、組織マネジメント、ファイナンス
海外大学院	統計学、ミクロ経済学、倫理学、経営戦略、リーダーシップ、ファイナンス

必修化すべきと考えている科目に関するアンケート結果では、海外大学院は「倫理学」や「リーダーシップ」を重視している傾向がうかがえる。

国内外の経営系大学院の比較・考察

Q. 経営系専門職大学院/経営系大学院の授業科目としてどのようにお考えですか。

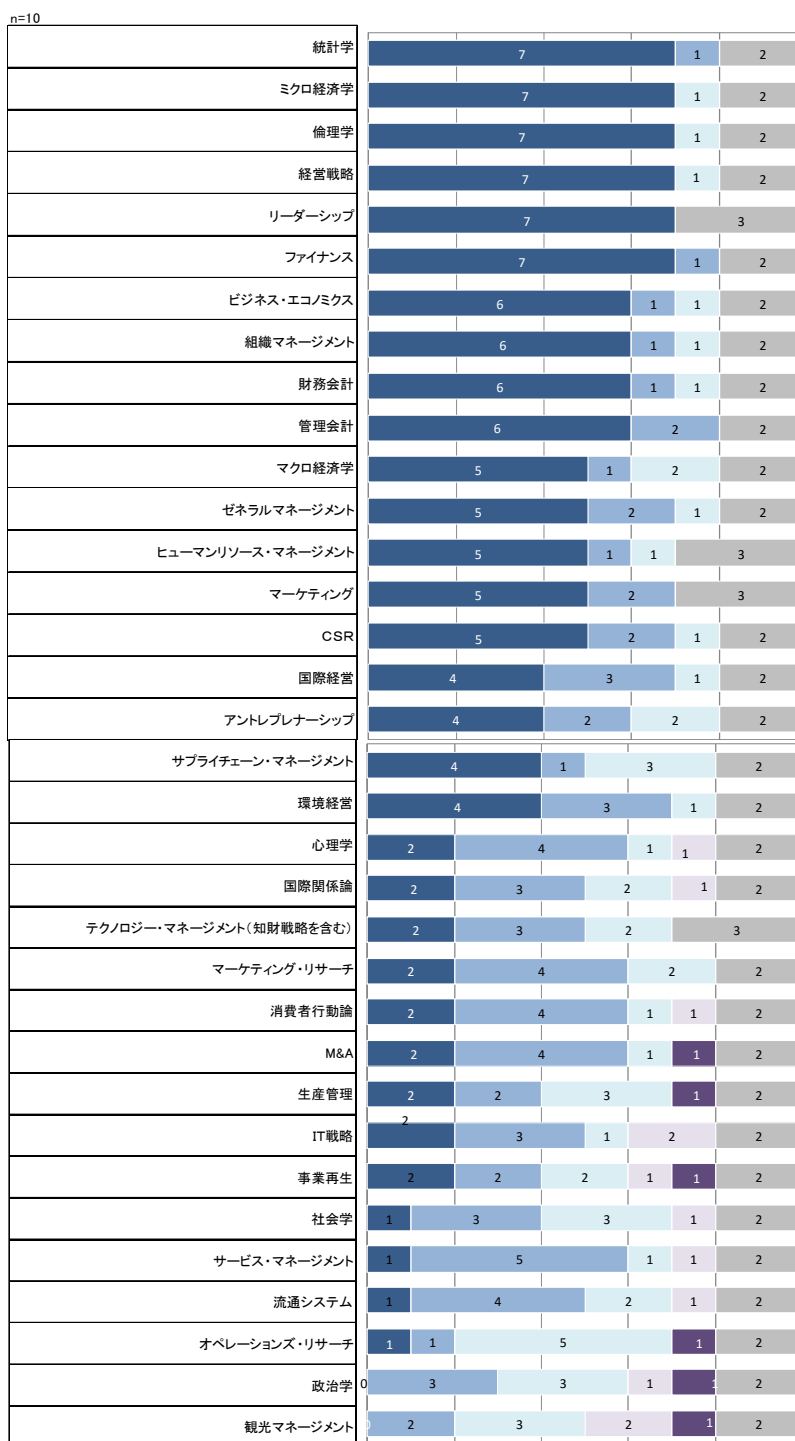
【国内大学院】



国内外の経営系大学院の比較・考察

【海外大学院】

- 必修化すべき科目
- 必修化はしないが学生にとっては重要
- 必修化はしないが特定の学生にとっては重要
- 重要性は高くないが必要性はある
- 必要性がない科目
- 不明・無回答

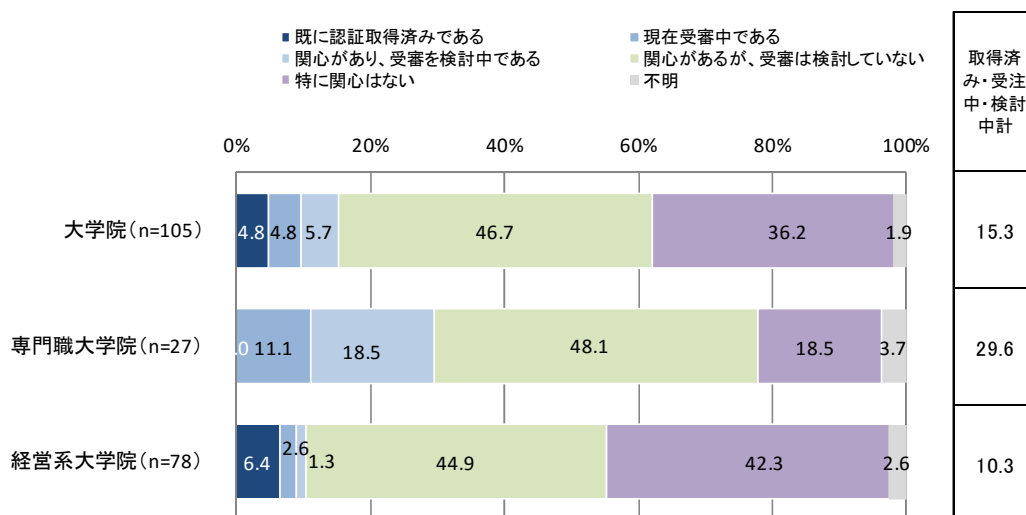


■国際的な評価機関からの認証（AACSB、EFMD など、国際的な機関からの認証に対する関心度合いと認証有無）

国内大学院	「特に興味はない」とする大学院は 36%であった。
海外大学院	国際認証に対する関心が高い。

Q. AACSB や EFMD などの国際的な評価機関からの認証取得に関心がありますか。

【国内大学院】



【海外大学院】

	n
既に認証取得済みである	9
現在受審中である	0
関心があり、受審を検討中である	0
関心があるが、受審は検討していない	0
特に興味はない	0
無回答	1
全体	10

海外大学院へのヒアリング結果では、国際認証を取得する利点として、以下のようなコメントが得られた。

海外大学院へのヒアリング結果

- ・ AACSB を取得することにより、質の高さを対外的にアピールすることができるため、AACSB は最重要視している。その他にも、AACSB の発行物がとても有益である。
- ・ 認証は価値のあるものであり、認証団体を通して得られる情報も価値がある。認証やランキングによって、より多くの優秀な学生の注目度を集めることができるため、重要と考えている。
- ・ 国際認証の取得には手間や費用がかかるものの、国際連携の強化、グローバル教育の促進などに役立つため、積極的に取得したいと考えている。
- ・ 国際認証は初めの手間暇や多額の費用が必要となるものの、ビジネススクールの価値向上、カリキュラムの改善、世界的なビジネススクールとの連携等では必要不可欠と考えている。
- ・ 国際認証を取得している。その理由としては、当校の価値を第三者機関から評価してもらえることである。

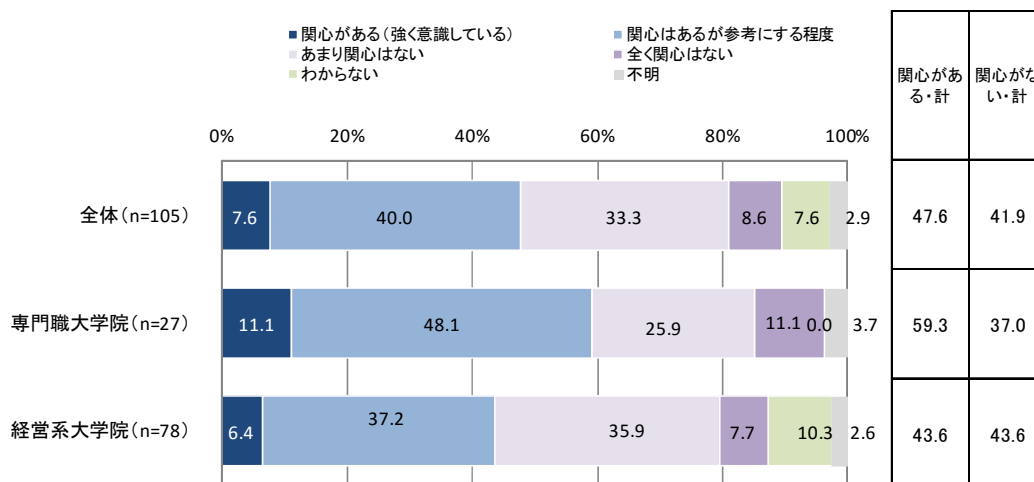
- 世界基準の評価団体から公平な評価を獲得することで、第三者機関の当校に対する信頼をある程度獲得することができることから、国際認証は重視している。国際認証団体からの改善点を含めたフィードバックや情報提供も意義のあるものである。

■ ビジネススクールランキングに対する関心

国内大学院	「関心がある（強く意識している）」「関心はあるが参考にする程度」が48%である。
海外大学院	強く意識している大学院が多い。

Q. ビジネススクールランキングに関心がありますか。(SA)

【国内大学院】



【海外大学院】

	n
関心がある(強く意識している)	6
関心はあるが参考にする程度	3
あまり関心はない	0
全く関心はない	0
わからない	0
無回答	1
全体	10

海外大学院へのヒアリング結果では、ビジネススクールランキングへの関心が高い大学院が多い。その理由としては、「優秀な学生や教員の確保」や「自国内を含めた自校の認知度の向上」が挙げられた。外国人比率を高め、グローバルな教育環境の創出、整備を目標としている大学院にとっては、ビジネススクールランキングがより意義のあるものとして認識されている。

海外大学院へのヒアリング結果

- 当校はランキングを重視している。ビジネススクールへの入学を考える応募者は、国際認証やランキングを一度は参考にするので、当校も重要視せざるを得ないと考えている。
- ビジネススクールランキングは、大学の位置付けや評価を知る上で参考になる指標である。また、優秀な学生の入学を増やすためにも高いランキングを維持することが重要である。

- ・ ビジネススクールランキングは非常に重要であると考えており、認証の取得も含めてランキングの向上に努めている。ランキングはビジネススクールの評価を表す指標であり、高いランキングを獲得することによって優れた学生や教員を採用することができる。また、企業もランキング上位校の学生を採用したいと考えている。
- ・ 当校では、世界的な知名度の低さを課題と捉えており、課題解決のためにビジネススクールランキングにランキングされることを重要視している。

8. 資料

8.1. 大学院へのアンケート調査票

**文部科学省 平成28年度「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」
国内外の経営系専門職大学院/経営系大学院の実態調査**

経営系専門職大学院/経営系大学院の状況についてお伺いいたします。

大学(院)名	
研究科・専攻	
回答者氏名	
回答者所属	
電話番号	
メールアドレス	

Q1 経営系専門職大学院/経営系大学院の在学者の状況(2016年)

在学者数		名
男女比	男性	%
	女性	%
社会人学生比率		%
外国人比率 ※外国籍をもつ学生の比率		%
留学生比率 ※留學ビザを持つ学生の比率		%
企業から派遣されてくる学生の比率		%
在学生の平均年齢		歳
「学部段階」の専攻における理系比率		%
ノンディグリープログラムのみを受講生(単科生)		名

Q2 経営系専門職大学院/経営系大学院の入学者選抜の状況(2016年)

入学定員		名	合格者数		名
募集人員		名	入学者数		名
志願者数		名	退学者数 (2016年に退学した方)		名
受験者数		名	休学者数 (2016年に休学した方)		名

大学院生の入学要件(学生の選抜)・属性についてお伺いいたします。

Q3 大学院への入学要件(学生の選抜)において、学生個人の評価・属性をどの程度重視していますか。
以下のそれぞれについてお答えください。(〇は1つずつ)

		重視する	まあ重視する	どちらとも いえない	あまり重視しない	重視しない
1	年齢	5	4	3	2	1
2	社会人の実務経験年数	5	4	3	2	1
3	勤務先の業種	5	4	3	2	1
4	勤務先での職種・職能 (営業、生産、研究開発、人事、経理など)	5	4	3	2	1
5	勤務先での役職・職位	5	4	3	2	1
6	特定の職種(専門職等)に従事した実務経験	5	4	3	2	1
7	起業家である	5	4	3	2	1
8	海外勤務経験	5	4	3	2	1
9	海外留学経験	5	4	3	2	1
10	外国人である	5	4	3	2	1
11	これまでのキャリアの実務経験や研究活動での 業績・実績(学術論文数や特許出願数等)	5	4	3	2	1
12	フルタイムで就学できる	5	4	3	2	1
13	就学の際に勤務先のサポートがある	5	4	3	2	1
14	勤務先や自宅から通学に要する時間	5	4	3	2	1
15	学業成績(大学成績、GPAなど)	5	4	3	2	1
16	英語力(GMAT/GRE、TOEFLなどのスコア)	5	4	3	2	1
17	特定分野の専門知識	5	4	3	2	1
18	論文やレポートを書く能力	5	4	3	2	1
19	個人の資質に関わる要素(論理的思考能力、 創造性、コミュニケーション力等)	5	4	3	2	1
20	志望動機・学習意欲	5	4	3	2	1

Q4 上記以外で、大学院への入学要件(学生の選抜)として重視していることはありますか。

Q5 大学院への入学要件(学生の選抜)において、学生の構成(多様性)をどの程度重視していますか。
以下のそれぞれについてお答えください。(○は1つずつ)

		重視する	まあ重視する	どちらともいえない	あまり重視しない	重視しない
1	国籍(外国人の割合や出身地域の分布)	5	4	3	2	1
2	年齢	5	4	3	2	1
3	性別	5	4	3	2	1
4	出身学部(文系/理系)	5	4	3	2	1
5	職歴の有無・実務経験年数	5	4	3	2	1
6	勤務先の業種	5	4	3	2	1
7	勤務先の規模(企業規模)	5	4	3	2	1
8	勤務先の職種・職能 (営業、生産、研究開発、人事、経理など)	5	4	3	2	1
9	勤務先の役職・職位	5	4	3	2	1

Q6 上記以外で、学生の構成(多様性)の点で重視していることはありますか。

学生の募集について

Q7 大学院側からみた学生の志望動機はどのようなものだと思いますか。
志望動機として多いと思われるものを3つまでお選びください。

※回答者の方の主観でかまいません

(○は3つまで)

1. 企業経営に必要な一通りの理論や知識を得るため
2. 特定分野の専門的な知識を得るため
3. 実践的な知識を得るため
4. 先端的な専門知識を得るため
5. 広い知見・視野を得るため
6. 人的なネットワークを得るため
7. 国際的なネットワークを得るため
8. 学位取得のため
9. 企業から派遣されたため
10. 就職・転職のため
11. その他()
12. わからない

Q8 学生を確保するために、取り組んでいること、重視していることは何ですか。

重視していることを5つまでお選びください。

(○は5つまで)

1. カリキュラムの充実(専門性の高い授業や、英語による授業を増やすなど)
2. 学費を抑える
3. 奨学金などの学生への経済的支援の制度を充実させる
4. 著名な教員を招聘する
5. 学術研究業績の高い教員を招聘する
6. 実務(企業)において実績のある教員を招聘する
7. 産業界(企業)からの学生の派遣を積極的に受け入れる
8. 働きながらでも修学できる環境を整備・充実化させる
9. 英語による授業の拡充
10. 留学生の積極的な受入れ
11. 海外大学院との単位交換制度等の充実化
12. ノンディグリー・プログラムを実施
13. 課程修了後のキャリア形成等の相談・支援体制を充実
14. 企業の人事部などへの案内
15. 広告宣伝等のプロモーションを積極的に行う
16. オープンキャンパスの実施
17. AACSBやEFMDなどの国際的な評価機関からの認証取得
18. その他()

AACSB(The Association to Advance Collegiate Schools of Business)およびEFMD(European Foundation for Management Development):

マネジメント教育の国際的な認証評価機関

目指している具体的な人材像

Q9 貴経営系専門職大学院/経営系大学院では、どのような人材を養成することを目指していますか。

以下のそれぞれについてお答えください。

(○は1つずつ)

		目指している	どちらかといえば目指している	どちらともいえない	どちらかといえば目指していない	目指していない
1	ゼネラルマネージャー(事業経営者)	5	4	3	2	1
2	特定分野のスペシャリスト	5	4	3	2	1
3	経営層の視点から研究開発の推進を行える人材(技術経営人材)	5	4	3	2	1
4	イノベーション人材(新たな市場、イノベーション、アイデアなどを創出する人材)	5	4	3	2	1
5	起業家	5	4	3	2	1
6	グローバル人材(グローバル化・国際競争力の向上に貢献できる)	5	4	3	2	1

Q10 上記以外で、貴経営系専門職大学院/経営系大学院で養成することを目指している人材像はありますか。

Q11 貴経営系専門職大学院/経営系大学院では、どのような能力・スキルを養成することを重視していますか。
以下のそれぞれについてお答えください。

(○は1つずつ)

	重視している	まあ重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない
1 経営戦略や人的資源管理、会計、ファイナンス、テクノロジー・マネージメントなど企業経営に必要な一通りの理論や知識の習得	5	4	3	2	1
2 リーダーシップ	5	4	3	2	1
3 コミュニケーション能力	5	4	3	2	1
4 交渉力	5	4	3	2	1
5 プレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
6 戦略思考能力	5	4	3	2	1
7 問題解決力	5	4	3	2	1
8 創造性	5	4	3	2	1
9 分析思考能力	5	4	3	2	1
10 組織マネージメント力(人的資源管理を含む)	5	4	3	2	1
11 情報統合能力	5	4	3	2	1
12 倫理的行動力	5	4	3	2	1
13 技術情報などを商品化・実用化・事業化につなげる能力(実現能力)	5	4	3	2	1
14 ビジネスモデル(ビジネスプラン)作成能力	5	4	3	2	1
15 調査技能・評価能力	5	4	3	2	1
16 知財能力(マネージメント・活用力を含む)	5	4	3	2	1
17 産学連携から施策等を構築する力	5	4	3	2	1
18 システム設計力(デザインシンキング)	5	4	3	2	1
19 異文化への対応力(ネットワークを含む)	5	4	3	2	1

Q12 上記以外で、貴経営系専門職大学院/経営系大学院で養成することを重視している能力・スキルはありますか。

教育課程の編成について

Q13 貴経営系専門職大学院/経営系大学院の教育課程の状況についてお知らせください。

標準修業年限	
修了に必要な単位数	
講座(科目)数	
うち、外国語による講座(科目)数	
総単位数	
うち、外国語による講座の総単位数	

Q14 教育課程(プログラム)の編成のうち、カリキュラム内容で重視している点は何ですか。
特に重視している点を3つまでお選びください。

(○は3つまで)

1. 最先端のテーマを取り扱うこと
2. 企業等出身の講師や実務の最先端の講師による講義、企業等と連携した授業
3. 成長が見込まれる市場・分野のカリキュラムの編成
4. 特定の分野を深く追求する研究・学習が可能な内容
5. 幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容
6. 国際的な視点を踏まえた内容
7. 時間的に無理のない編成
8. 産業界(企業)のニーズを踏まえたカリキュラム・テーマ設定
9. 大学院が所在する地域のニーズ(産業集積など)を踏まえたカリキュラム・テーマの設定
10. 学生の所属する組織の問題を解決する研究・学習が可能な内容
11. 修士(専門職学位)論文の作成を通じた教育効果の向上
12. シラバス(講義の概要・計画)を具体的に設定している
13. その他()

Q15 経営系専門職大学院/経営系大学院の授業科目としてどのようにお考えですか。

以下のそれぞれについてお答えください。

(○は1つずつ)

		必修化すべき科目	必修化はしないが、多くの学生にとって重要な科目	必修化はしないが、特定の学生にとって重要な科目	重要性は高くないが必要性はある科目	必要性がない科目
1	統計学	5	4	3	2	1
2	ビジネス・エコノミクス	5	4	3	2	1
3	マクロ経済学	5	4	3	2	1
4	ミクロ経済学	5	4	3	2	1
5	心理学	5	4	3	2	1
6	社会学	5	4	3	2	1
7	国際関係論	5	4	3	2	1
8	政治学	5	4	3	2	1
9	倫理学	5	4	3	2	1
10	経営戦略	5	4	3	2	1
11	国際経営	5	4	3	2	1
12	組織マネジメント	5	4	3	2	1
13	ゼネラルマネジメント	5	4	3	2	1
14	アントレプレナーシップ	5	4	3	2	1
15	テクノロジー・マネジメント(知財戦略を含む)	5	4	3	2	1
16	リーダーシップ	5	4	3	2	1
17	ヒューマンリソース・マネジメント	5	4	3	2	1
18	マーケティング	5	4	3	2	1
19	マーケティング・リサーチ	5	4	3	2	1
20	サービス・マネジメント	5	4	3	2	1
21	流通システム	5	4	3	2	1
22	消費者行動論	5	4	3	2	1
23	観光マネジメント	5	4	3	2	1
24	財務会計	5	4	3	2	1
25	管理会計	5	4	3	2	1
26	ファイナンス	5	4	3	2	1
27	M&A	5	4	3	2	1
28	オペレーションズ・リサーチ	5	4	3	2	1
29	生産管理	5	4	3	2	1
30	サプライチェーン・マネジメント	5	4	3	2	1

経営系専門職大学院/経営系大学院の授業科目としてどのようにお考えですか(つづき)。

以下のそれぞれについてお答えください。

(○は1つずつ)

		必修化すべき科目	必修化はしないが、多くの学生にとって重要な科目	必修化はしないが、特定の学生にとって重要な科目	重要性は高くないが必要性はある科目	必要性がない科目
31	IT戦略	5	4	3	2	1
32	事業再生	5	4	3	2	1
33	環境経営	5	4	3	2	1
34	CSR	5	4	3	2	1

Q16 上記以外で、経営系専門職大学院/経営系大学院で必修化すべき科目、重要な科目はありますか。

Q17 貴経営系専門職大学院/経営系大学院では、正規のプログラムに加えて、ノンディグリー・プログラムを実施していますか。

ノンディグリー・プログラム……学位の取得はできない代わりに知識や技術の修得のみを目的とする教育課程

(○は1つ)

1. 実施している ⇒Q18へ

2. 実施していない ⇒Q21へ

※Q18～Q20は、ノンディグリー・プログラムを実施しているとお答えの方にお伺いいたします。

Q18 ノンディグリー・プログラムの実績を教えてください。

実施年数 年間

受講者実績
(延べ人数) 名

提供しているノン・ディグリープログラムの科目数(2016年現在) 科目

Q19 ノンディグリー・プログラムを実施している理由・目的を教えてください。

主な理由・目的を3つまでお選びください。

(○は3つまで)

1. MBA・MOT修了生のための継続教育の機会を提供
 2. MBA・MOT正規プログラムへの誘導(体験)
 3. 教員の教育経験・ノウハウの蓄積
 4. 産業界のニーズ(短期間で集中的に学習)に対応
 5. 産業界からの講師招聘等を通じた、産業界との連携強化
 6. 大学院の運営資金の獲得
 7. その他()

- Q20 実施しているノンディグリー・プログラムの内容はどのようなものですか。
科目種類、履修期間、レベル(基礎・応用)、教育方法、担当教員、受講生のターゲットなどについて
具体的にご記入ください。複数ある場合は代表的なプログラムについてご記入ください。

- Q21 国際連携に関する取組みではどのような取り組みを行っていますか。 (〇はいくつでも)

1. 海外大学院と単位互換を行っている
 2. 海外大学院と提携して授業を行っている
 3. 海外大学院と共同研究を行う機会を設けている
 4. 海外大学院の教員を積極的に招聘している
 5. 海外大学院の学生を受け入れている
 6. 海外大学院に学生を留学させている
 7. その他()
 8. 特になし

教育環境

- Q22 学びやすい教育環境において、特に配慮していることは何ですか。 (〇はいくつでも)

1. 夜間・週末開講
 2. サテライトキャンパスや遠隔授業の設定
 3. 短期コースの設置
 4. 長期履修制度の設置
 5. メディアを利用して行う授業(オンデマンド等)の設定
 6. 科目等履修生制度等の設定
 7. 休学等に対する柔軟な対応
 8. その他()
 9. 特になし

教育方法・形態

Q23 主要な(特に重視している)教育形式はどのような形式ですか。

特に重視している教育形式を3つまでお選びください。

(○は3つまで)

1. 講義(レクチャー)形式
2. ケーススタディ(case-study)方式
3. 演習(seminar)方式
4. 学生同志のロールプレイ(role-play)/ビジネスゲーム
5. 特定のテーマをチームワークによって研究するプロジェクト型教育
6. インターンシップを行なうことにより実体験を積ませる(field-study方式)
7. 現地調査などを組み合わせた研究・学習(field-study方式)
8. 個別の教育指導・研究指導
9. その他()

Q24 前問でお答えいただいた形式の教育方法・形式を重視されている理由は何ですか。

Q25 主要なクラスサイズはどのくらいの規模ですか。

クラスサイズで多いもの(主要)を3つまでお選びください。

(○は3つまで)

- | | |
|----------|---------------------|
| 1. 10人以下 | 5. 50人以下 |
| 2. 20人以下 | 6. 50人超 |
| 3. 30人以下 | 7. 特にクラスサイズは意識していない |
| 4. 40人以下 | |

Q26 学生の修了要件・評価はどのように行っていることが多いですか。

主要なもの(重視しているもの)を3つまでお選びください。

(○は3つまで)

1. 試験の成績・GPAなど
2. 特定課題に関する研究成果
3. 講義への貢献度
4. 出席状況
5. レポート・課題の提出・内容
6. 演習(リサーチ・レポート)
7. 修士論文
8. その他()

教員組織

Q27 経営系専門職大学院/経営系大学院における教員組織についてお伺いいたします。

教員数	名		
実務家教員	名	⇒ うち、博士号取得者	名
研究者教員	名	⇒ うち、博士号取得者	名
外国人教員比率	名		

Q28 ファカルティ・ディベロップメントに対する取り組み状況についてお伺いいたします。

※ファカルティ・ディベロップメント=大学教員の教育能力を高めるための実践的方法

(○は1つ)

1. 毎月1回以上(年12回以上)	}	Q29へ
2. 2~3か月に1回程度(年4~6回)		
3. 半年に1回程度(年2~3回)	}	Q30へ
4. 年1回程度		
5. それ以下		
6. 特にファカルティ・ディベロップメントには取り組んでいない		

※Q29は、ファカルティ・ディベロップメントを実施しているとお答えの方にお伺いいたします。

Q29 ファカルティ・ディベロップメントで取り組んでいる内容についてお答えください。

(○はいくつでも)

1. 新任教員のための研修会)
2. 新任教員以外の教員のための研修会	
3. 教員相互の授業参観	
4. 教員相互による授業評価	
5. 教育方法改善のための講演会・研修の開催	
6. 教育方法改善のための授業検討会の開催	
7. OJT型の研修	
8. 授業方法改善のためのセンター等の設置	
9. 教員向けに提供されている外部の教育プログラムへの参加	
10. その他(

Q30 教員の質(教育能力や教員の能力を高める取り組み)について課題はありますか。

以下のそれぞれについてお答えください。

(○は1つずつ)

		課題はない(上手く いっている)	どちらかとい えば上手 くいっている	どちらとも いえない	どちらかとい えば課題 がある	課題があ る
1	実務家教員の採用	5	4	3	2	1
2	研究者教員の採用	5	4	3	2	1
3	実務家教員の教育能力	5	4	3	2	1
4	研究者教員の教育能力	5	4	3	2	1
5	実務家教員と研究者教員の連携	5	4	3	2	1

Q31 教員の教育能力向上のための取組みのうち、貴大学院で実施されているもので、特に効果的だと思われる取組みがありましたらご記入ください。

Q32 教員の教育能力向上のための取組み(ファカルティ・ディベロップメント)において、課題や障壁はありますか。具体的にご記入ください。

Q33 教員の評価方法で特に重視しているものを3つまでお答えください。(○は3つまで)

1. 教員相互による授業評価
 2. 360° 評価
 3. 学生による授業評価アンケート
 4. 研究成果のとりまとめ、教員のメディア等掲載状況、論文・学会発表等の実績評価
 5. その他()

産業界(企業等)との連携

- Q34 昨今、大学院における高度専門職業人養成について、一定の成果・普及が図られたと評価がある一方で、社会(出口)との連携が十分ではないことで、当初期待されたほどの成果・広がりに至っていないとの指摘もあります。貴大学院では、産業界(企業など)が求める人材を養成できている(産業界と連携が図られている)と思いますか。
※企業側が人材を活用できていないケースは除き、あくまで大学院側としての見解をお答えください。

(○は1つ)

1. そう思う(産業界が求める人材を養成できている)
2. まあそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない(産業界が求める人材を養成できていない)

- Q35 産業界が求める人材を養成(連携強化)するために、効果的だと思う取り組みは何ですか。教育内容、教育方法、教育環境、教員の派遣など様々な観点から効果的だと思う取り組みをご記入ください。

- Q36 産業界(企業など)からのニーズはどのようにして把握していますか。(○はいくつでも)

1. 企業の担当者などと情報交換の場を設けている
2. 教員のネットワークを通じて、企業の情報を得ている
3. 業界団体などを通じて企業の情報を得ている
4. 実際に企業に就職した修了生から情報を得ている
5. 在学生(社会人)から情報を得ている
6. 実務家教員や実務家教員のネットワークから情報を得ている
7. 企業から直接要望・ニーズを聞いている
8. その他()

- Q37 目標に掲げる人材像を養成できているかをどのように評価していますか。評価はどのような観点で行っていますか。(○はいくつでも)

1. 教員による評価
2. 修了生の意見・評価
3. 修了生の処遇・立場・ポジションの変化
4. 修了生の就職先からの評価
5. その他()
6. 特に評価していない

認証・評価

Q38 AACSBやEFMDなどの国際的な評価機関からの認証取得に関心がありますか。 (〇は1つ)

1. 既に認証取得済みである
2. 現在受審中である
3. 関心があり、受審を検討中である
4. 関心があるが、受審は検討していない
5. 特に関心はない

Q39 ビジネススクールランキングに関心がありますか。

(例: Financial Times 誌 世界MBAランキングなど)

(〇は1つ)

1. 関心がある(強く意識している)
2. 関心はあるが参考にする程度
3. あまり関心はない
4. 全く関心はない
5. わからない

理由

Q40 経営系大学院を運営するうえでの課題はありますか。 (〇はいくつでも)

1. 国際的な動向を踏まえたプログラムの整備
2. 最先端な動向を踏まえたプログラムの整備
3. 企業と連携したプログラムの実施・開発をできる環境整備
4. 留学生に配慮したプログラムの開発
5. 社会人のニーズを把握すること
6. 学生の集客・確保
7. 企業からコンスタントに社会人を派遣される仕組み
8. 学生間の職業経験の差
9. 教員の確保
10. 教員レベルの向上
11. 教員間の連携
12. 国際認証の取得・運用に向けた取組み
13. 運営費の確保
14. その他()

Q41 経営系専門職大学院/経営系大学院におけるコアカリキュラム策定、機能強化に対しての要望・意見がありましたらご自由にご記入ください。

※コア・カリキュラムについて

経営系専門職大学院で学ぶすべての学生が修得すべきと考えられる学習内容、共通的な到達目標(ビジネス分野・MOT分野)

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

8.2. 修了生へのアンケート調査票

**文部科学省 平成28年度「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」
経営系大学院修了生に対するアンケート調査**

修了した経営系専門職大学院/経営系大学院名と研究科名、専攻について

Q1 修了した経営系専門職大学院/経営系大学院名と研究科名、専攻を教えてください。

大学(院)名			
研究科・専攻			
大学の所在地	1.日本国内 2.海外(日本以外)	→ 国名()	
修了年	西暦	年	
学位	1. 経営	2. 技術経営(MOT)	3. その他()

経営系専門職大学院/経営系大学院名に就学した時の状況についてお伺いいたします。

Q2 修了時の年齢を教えてください。

 歳

Q3 就学時の家族構成(扶養関係にある)について教えてください。

(○は1つ)

1. 独身 2. 配偶者(パートナー) 3. 配偶者(パートナー)と子ども 4. その他()
--

Q4 大学院入学前の最終学歴・専攻分野を教えてください(大学名、学部・学科・研究科、専攻名)

大学名	学部・学科・研究科名	専攻名

Q5 就学直前の就業経験について教えてください。

(○は1つ)

1. 企業等に勤務した経験が10年以上あった 2. 企業等に勤務した経験が6～9年あった 3. 企業等に勤務した経験が3～5年あった 4. 企業等に勤務した経験が1～2年あった 5. 企業等に勤務した経験が全くなかった

Q6 就学しながら企業などに勤務していましたか。(〇は1つ)

- | | | |
|----------------------------|---|-----|
| 1. フルタイムで働いていた | } | Q7へ |
| 2. 企業派遣等で学業に専念していた | | |
| 3. 身分が保障されたまま休職した | } | Q9へ |
| 4. パートタイム、アルバイトなどで働いていた | | |
| 5. 就職していなかった(就学のために退職した) | | |
| 6. 就職していなかった(元々無職・学生等であった) | | |
| 7. その他() | | |

※就学時に勤務(休職を含む)していた方にお伺いいたします。

Q7 就学時の勤務先の従業員数を教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 1-10人 | 6. 301-500人 |
| 2. 11-30人 | 7. 501-1,000人 |
| 3. 31-50人 | 8. 1,001-5,000人 |
| 4. 51-100人 | 9. 5,000人以上 |
| 5. 101-300人 | |

※就学時に勤務(休職を含む)していた方にお伺いいたします。

Q8 就学時に勤務していた先の業種を教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 農業、林業、漁業 | 11. 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 2. 鉱業、採石業、砂利採取業 | 12. 宿泊業、飲食サービス業 |
| 3. 建設業 | 13. 生活関連サービス業、娯楽業 |
| 4. 製造業 | 14. 教育、学習支援業(大学含む) |
| 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 15. 医療、福祉 |
| 6. 情報通信業 | 16. 複合サービス事業 |
| 7. 運輸業、郵便業 | 17. サービス業(他に分類されないもの) |
| 8. 卸売業、小売業 | 18. 公務(他に分類されるものを除く) |
| 9. 金融業、保険業 | 19. その他() |
| 10. 不動産業、物品賃貸業 | |

※全員の方がお答えください

Q9 学費の負担について、奨学金や企業等から補助を受けていましたか。
※親族等からの補助は除いてお答えください。(〇は1つ)

- | | | |
|------------------------|---|------|
| 1. 全額自己負担(補助は一切受けていない) | } | Q11へ |
| 2. 一部の補助を受けていた | | |
| 3. 全額補助を受けていた | } | Q10へ |
| 4. その他() | | |

※学費の補助を受けていた方(一部もしくは全額)にお伺いいたします。

Q10 どこからの補助でしたか。(〇はいくつでも)

- | |
|--------------------|
| 1. 大学が負担(給付型奨学金など) |
| 2. 国が負担(教育訓練給付金など) |
| 3. 所属企業が負担 |
| 4. 民間の奨学金 |
| 5. その他() |

大学院就学前と修了後の変化についてお伺いいたします。

※全員の方がお答えください

Q11 大学院に就学した時と、修了後(現在)の勤務先に変化はありましたか。(〇は1つ)

1. 就学時と同じ勤務先で就業している	}	Q15へ	
2. 転職した(同業種)		}	Q12へ
3. 転職した(異なる業種)	}		Q23へ
4. 起業した			
5. 新たに就職した(就学時に就業していなかった)			
6. 現在就業していない(無職)	}	Q23へ	
7. その他()			

Q12 現在の勤務先の従業員数を教えてください。(〇は1つ)

1. 1-10人	4. 51-100人	7. 501-1,000人
2. 11-30人	5. 101-300人	8. 1,001-5,000人
3. 31-50人	6. 301-500人	9. 5,000人以上

Q13 現在の勤務先の資本金を教えてください。(〇は1つ)

1. 1千万円以下	4. 1億円超～3億円以下
2. 1千万円超～5千万円以下	5. 3億円超
3. 5千万円超～1億円以下	

Q14 現在の勤務先の業種をお知らせください。(〇は1つ)

1. 農業, 林業, 漁業	11. 学術研究, 専門・技術サービス業
2. 鉱業, 採石業, 砂利採取業	12. 宿泊業, 飲食サービス業
3. 建設業	13. 生活関連サービス業, 娯楽業
4. 製造業	14. 教育, 学習支援業(大学含む)
5. 電気・ガス・熱供給・水道業	15. 医療, 福祉
6. 情報通信業	16. 複合サービス事業
7. 運輸業, 郵便業	17. サービス業(他に分類されないもの)
8. 卸売業, 小売業	18. 公務(他に分類されるものを除く)
9. 金融業, 保険業	19. その他()
10. 不動産業, 物品賃貸業	

Q15 現在の勤務先の所在地(都道府県)を教えてください。

都・道 府・県	※海外の場合は国名をご記入ください。
------------	--------------------

Q16 現在の勤務先上場の有無をお知らせください。(〇はいくつでも)

1. 未上場	4. マザーズ
2. 東証1部	5. JASDAQ
3. 東証2部	6. その他()

Q17 就学前と修了後(現在)において、所得に変化はありましたか。

※就業直前に退職された方は、直前まで勤務してきた時と比較してお答えください

※就学前に就業していなかった方はQ20へお進みください

※大学院就学に影響しない定期昇給分については除いてお答えください

(○は1つ)

1. 所得が大幅にUpした
2. 所得がややUpした
3. とくに変わらない
4. 所得がDownした

※就学時と同じ勤務先で就業していると回答された方にお伺いいたします。

Q18 学位取得後において勤務先での処遇等に変化はありましたか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 経営管理部門に配置 | 5. 給与や手当に反映 |
| 2. 希望の部署に配置転換 | 6. 責任ある仕事を任せられるようになった |
| 3. 人事評価での加点 | 7. その他() |
| 4. 昇進・昇級 | 8. 特に変化はなかった |

※就学時に勤務(休職を含む)していた方にお伺いいたします。

Q19 「就学時」「就学直前」の役職を教えてください。

※転職された方は転職前の勤務先での役職をお答えください。

(○は1つ)

1. 役員、経営者クラス相当
2. 課長、部長クラス相当
3. 係長、主任クラス相当
4. 一般社員・職員クラス相当
5. 個人事業主
6. その他()

Q20 「現在」の役職を教えてください。

※転職された方は転職後の勤務先での役職をお答えください。

(○は1つ)

1. 役員、経営者クラス相当
2. 課長、部長クラス相当
3. 係長、主任クラス相当
4. 一般社員・職員クラス相当
5. 個人事業主
6. その他()

※就学時に勤務(休職を含む)していた方にお伺いいたします。

Q21 「就学時」「就学直前」の所属部署・部門を教えてください。

※転職された方は転職前の勤務先での所属部署・部門をお答えください。

(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 経営 | 9. サービス、販売、運輸系 |
| 2. 営業 | 10. ITエンジニア(システム開発、情報システム等) |
| 3. 経営企画、事業統括、新規事業開発 | 11. 技術系(設計・研究開発・生産技術・品質管理等) |
| 4. 商品企画、営業企画、マーケティング、宣伝 | 12. 建築、土木技術者 |
| 5. 物流、資材購買、店舗開発関連 | 13. 教育・講師 |
| 6. 総務、人事、法務、知財、広報、IR | 14. 公務員 |
| 7. 専門職(コンサルタント、金融) | 15. その他() |
| 8. クリエイティブ系(広告、グラフィック、映像等) | |

※現在、就業されている方の方にお伺いいたします。

Q22 「現在」の所属部署・部門を教えてください。

(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 経営 | 9. サービス、販売、運輸系 |
| 2. 営業 | 10. ITエンジニア(システム開発、情報システム等) |
| 3. 経営企画、事業統括、新規事業開発 | 11. 技術系(設計・研究開発・生産技術・品質管理等) |
| 4. 商品企画、営業企画、マーケティング、宣伝 | 12. 建築、土木技術者 |
| 5. 物流、資材購買、店舗開発関連 | 13. 教育・講師 |
| 6. 総務、人事、法務、知財、広報、IR | 14. 公務員 |
| 7. 専門職(コンサルタント、金融) | 15. その他() |
| 8. クリエイティブ系(広告、グラフィック、映像等) | |

大学院へ志望動機など

※全員の方がお答えください

Q23 経営系大学院への志望動機について教えてください。

主な志望動機を3つまでお選びください。

(○は3つまで)

- | |
|---------------------------|
| 1. 企業経営に必要な一通りの理論や知識を得るため |
| 2. 特定分野の専門的な知識を得るため |
| 3. 実践的な知識を得るため |
| 4. 先端的な専門知識を得るため |
| 5. 広い知見・視野を得るため |
| 6. 人的なネットワークを得るため |
| 7. 国際的なネットワークを得るため |
| 8. 学位取得のため |
| 9. 企業から派遣されたため |
| 10. 就職・転職のため |
| 11. その他() |

Q24 経営系大学院へ入学する際に、どのような人材になることを目指しましたか。

当てはまるものを3つまでお選びください。

(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1. ゼネラルマネージャー(事業経営者) |
| 2. 特定分野のスペシャリスト |
| 3. 経営層の視点から研究開発の推進を行える人材(技術経営人材) |
| 4. イノベーション人材(新たな市場、イノベーション、アイデアなどを創出する人材) |
| 5. 起業家 |
| 6. グローバル人材(グローバル化・国際競争力の向上に貢献できる) |
| 7. その他() |

Q25 就学した大学院を認知したきっかけ(情報源)は何ですか。

(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 大学院のホームページ |
| 2. 知人の勧め |
| 3. インターネットでの評判 |
| 4. 大学院の広告(TVCM・新聞・雑誌・駅ポスター等) |
| 5. 企業派遣であった |
| 6. 新聞・雑誌の記事(大学院進学雑誌等) |
| 7. 大学院のオープンキャンパス、公開授業(MBA・MOT) |
| 8. 教員(MBA・MOT)による著書・論文等 |
| 9. その他() |

Q26 大学院を選定する際に、どのような点を重視しましたか。参考にしましたか。
重視したことを5つまでお選びください。

(○は5つまで)

1. 大学院の知名度が高い
2. 修了生の実績が高い
3. 教員の実績、知名度がある
4. 友人・知人の評判が良い
5. インターネット(口コミ等)での評判が良い
6. 通学しやすい場所に学校・教室があった
7. カリキュラムが充実(専門性の高い授業や、英語による授業が充実など)
8. 学費が手頃
9. 奨学金など経済的支援制度が充実している
10. 著名な教員がいる
11. 教員の実績、知名度がある
12. 企業派遣等勤務先が大学院と提携している
13. 働きながらも修学できる環境が整備・充実
14. 英語による授業が充実している
15. 留学生を積極的に受入れている
16. 海外大学院との単位交換制度等が充実している
17. 短期コースなどのプログラムに参加して良かった
18. 課程修了後のキャリア形成等の相談・支援体制が充実
19. AACSBやEFMDなどの国際的な評価機関からの認証を取得している
20. その他(

)

Q27 大学院を選定する際に、**教育課程(プログラム・カリキュラム)**で、重視した点はありますか。
特に重視した点を3つまでお選びください。(〇は3つまで)

1. 最先端のテーマを取り扱っている
2. 企業等出身の講師や実務の最先端の講師による講義、企業等と連携した授業
3. 成長が見込まれる市場・分野のカリキュラムの編成
4. 特定の分野を深く追求する研究・学習が可能な内容
5. 幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容
6. 国際的な視点を踏まえた内容
7. 時間的に無理のない編成
8. 産業界(企業)のニーズを踏まえたカリキュラム・テーマ設定
9. 地域のニーズ(産業集積など)を踏まえたカリキュラム・テーマの設定
10. 学生の所属する組織の問題を解決する研究・学習が可能な内容
11. 修士(専門職学位)論文の作成を通じた高い知識・能力の習得
12. シラバス(講義の概要・計画)が具体的に設定されている
13. その他()
14. 特になし

Q28 大学院を選定する際に、**教育形式**で重視した点はありますか。
特に重視した点を3つまでお選びください。(〇は3つまで)

1. 講義(lecture)形式
2. ケーススタディ(case-study)方式
3. 演習(seminar)方式
4. 学生同志のロールプレイ(role-play)/ビジネスゲーム
5. 特定のテーマをチームワークによって研究するプロジェクト型教育
6. インターンシップを行なうことにより実体験を積ませる(field-study方式)
7. 現地調査などを組み合わせた研究・学習(field-study方式)
8. 個別的教育指導・研究指導
9. その他()
10. 特になし

Q29 大学院を選定する際に、**大学院の環境面での学びやすさ**で重視した点はありますか。
特に重視した点を3つまでお選びください。(〇は3つまで)

1. 夜間・週末開講
2. サテライトキャンパスや遠隔授業の設定
3. 短期コース設置
4. 長期履修制度の設置
5. メディアを利用して行う授業(オンデマンド等)の設定
6. 科目等履修生制度*の設定 *正規入学せずに、希望する講義を1科目から受講できる制度
7. 休学等に対する柔軟な対応
8. その他()
9. 特になし

Q30 就学する大学院を選定する際に、第三者(評価機関)による認証の有無や評価内容を重視しましたか。

(○は1つずつ)

		重視した	まあ重視した	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない
1	AACSBやEFMDなどの国際的な評価機関からの認証	5	4	3	2	1
2	日本国内の認証機関からの評価 (文部科学大臣による認証を受けた大学基準協会、ABEST21など)	5	4	3	2	1

AACSB(The Association to Advance Collegiate Schools of Business)およびEFMD(European Foundation for Management Development):

マネジメント教育の国際的な認証評価機関

Q31 大学院を選定する際に、ビジネススクールランキングを参考にしましたか。

(例:Financial Times 誌 世界MBAランキングなど)

(○は1つ)

1. 参考にした
2. やや参考にした
3. あまり参考にしていない
4. 参考にしていない

Q32 大学院に就学するか否かを決定するにあたって、教育内容・環境以外で重要なことはありましたか。

(○はいくつでも)

1. 職場の理解
2. 家族の理解
3. ワークライフバランスへの配慮
4. その他()

Q33 大学院で学んだ結果、以下の能力・知識が習得できたと思いますか。(〇は1つずつ)

		習得できた	まあ習得 できた	どちらとも いえない	あまり 習得できて いない	習得できて いない
1	経営戦略や人的資源管理、会計、ファイナンス、テクノロジー・マネジメントなど企業経営に必要な一通りの理論や知識の習得	5	4	3	2	1
2	リーダーシップ	5	4	3	2	1
3	コミュニケーション能力	5	4	3	2	1
4	交渉力	5	4	3	2	1
5	プレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
6	戦略思考能力	5	4	3	2	1
7	問題解決力	5	4	3	2	1
8	創造性	5	4	3	2	1
9	分析思考能力	5	4	3	2	1
10	組織マネジメント力(人的資源管理を含む)	5	4	3	2	1
11	情報統合能力	5	4	3	2	1
12	倫理的行動力	5	4	3	2	1
13	技術情報などを商品化・実用化・事業化につなげる能力(実現能力)	5	4	3	2	1
14	ビジネスモデル(ビジネスプラン)作成能力	5	4	3	2	1
15	調査技能・評価能力	5	4	3	2	1
16	知財能力(マネジメント・活用力を含む)	5	4	3	2	1
17	産学連携から施策等を構築する力	5	4	3	2	1
18	システム設計力(デザインシンキング)	5	4	3	2	1
19	異文化への対応力(ネットワークを含む)	5	4	3	2	1

就学時の状況

Q34 修了単位修得の難易度に関してあなたご自身の見解を教えてください。(〇は1つ)

1. 非常に簡単であった (難易度が低すぎる)
2. やや簡単であった
3. 適切であった
4. やや難しかった
5. 非常に難しかった (難易度が高すぎる)
6. わからない

Q35 就学中に、苦勞された点はありますか。

(○はいくつでも)

1. 講義の予習、課題作成等に関わる時間の確保
2. 講義内容そのものを理解すること
3. 研究テーマの設定
4. 修論・研究成果の達成
5. 他の就学生とのコミュニケーションやレベルの差
6. 講義に出席するために、仕事のスケジュールを調整すること
7. 仕事上で、他の社員(上司や同僚・部下)の理解を得ること
8. 家族の理解を得ること
9. モチベーションの維持
10. 学費や就学に関わる費用の工面
11. 生活費の工面
12. その他()
13. 特になし

大学院に対する評価

Q36 大学院に対する満足度を以下のそれぞれについてお答えください。

(○は1つずつ)

		満足	やや満足	どちらともいえない	あまり良かったとは思わない	良かったとは思わない
1	一緒に学ぶ学生の経歴、レベル、多様性について	5	4	3	2	1
2	一授業あたりの学生数	5	4	3	2	1
3	教育内容(プログラム・カリキュラム)	5	4	3	2	1
4	仕事を続けながら履修しやすい環境・制度	5	4	3	2	1
5	教育方法(講義の形式など)	5	4	3	2	1
6	単位認定・課程修了要件	5	4	3	2	1
7	教員の質	5	4	3	2	1
8	学費と教育内容のバランス(費用対効果)	5	4	3	2	1
9	総合的な満足度	5	4	3	2	1

※前問のいずれかの項目で、「あまり良かったとは思わない」「良かったとは思わない」と回答された方にお伺いいたします。

Q37 具体的な理由を教えてください。

Q38 あなたは、職場の同僚や部下、友人等に経営系専門職大学院/経営系大学院名で学ぶことを推奨したことがありますか。

(○は1つ)

1. 推奨したことがあり、実際に大学院に就学した人がいる
2. 推奨したことはあるが、実際に大学院に就学した人はいない・わからない
3. 推奨したことはないが、機会があれば推奨したい
4. 推奨したことはなく、推奨したいとは思わない

Q39 経営系専門職大学院/経営系大学院では、例えば、執行役員クラスに対象者を限定したプログラム(主に短期コースで、企業経営をするために必要な経営の諸要素を集中的に学ぶ)を提供しているケースがあります。(多くの場合正規のプログラムと異なり学位の取得はできない)
あなたは、このようなプログラムを利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。

(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 利用している・利用したことがある | 2. 利用したことがない |
|---------------------|--------------|

(○は1つ)

- | | |
|------------|------------|
| 1. ぜひ利用したい | 3. 利用したくない |
| 2. まあ利用したい | 4. わからない |

企業(勤務先)に対する要望

Q40 大学院で学んだことが現在の勤務先で活かされていると思いますか。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1. 習得した内容を活かせる部署・部門で働いている |
| 2. 習得した内容を活かせるポジション・役割で働いている |
| 3. 普段の業務で習得した内容・能力を活かしている(一般教養としての知識習得を含む) |
| 4. あまり活かせていない |
| 5. 全く活かせていない |
| 6. 現在働いていない(無職) |

Q40 就学期間中に就業先に対する要望として当てはまるものを教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|---|
| 1. 受講費用の全額を補助している | |
| 2. 受講費用の一部を補助している | |
| 3. 就学期間を長期休暇(有給)をとれるようにする | |
| 4. 就学期間に長期休暇(無給)をとれるようにする | |
| 5. 授業のある時間帯は、早退を許す、休めるようにするなどフレキシブルな労働時間とする | |
| 6. 就学期間中の転勤や出張を抑制する | |
| 7. 仕事の割振り等を配慮する | |
| 8. 学習しやすい部署へ異動させる |) |
| 9. 大学院に通学していることを公言しづらい雰囲気なくす | |
| 10. 大学院への通学が原因で、評価を下げるなどの不利益がないことを確約する | |
| 11. 大学院等の情報を従業員に提供する | |
| 12. その他(|) |
| 13. 特になし | |
| 14. 就学期間中は働いていない(無職) | |

Q41 **終了後の就業先**での処遇に希望することは次のうちどれですか。もっとも重視するものを1つだけ選んでください。
(○は1つ)

1. 経営管理部門に配置
2. 希望の部署に配置転換
3. 人事評価での加点
4. 昇進・昇級
5. 給与や手当に反映
6. 責任ある仕事を任せて欲しい
7. その他()
8. 特になし
9. 現在働いていない(無職)

Q42 大学院に対しての要望・意見がありましたらご自由にご記入ください。

◎ 今後、ヒアリング調査を計画しています。ご協力いただけますでしょうか？

※調査結果について、個人が特定できる情報が公表されることは一切ございません。

※実施時期、時間、場所等は可能な限りご要望に合わせるようにいたします。

1. 対応可能
2. 時期によっては対応可能
3. 対応不可

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

8.3. 企業へのアンケート調査票

**文部科学省 平成28年度「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」
経営系専門職大学院に対する評価・ニーズに関するアンケート調査**

本調査は、企業等、産業界の経営系専門職大学院に対するニーズを把握し、産業界のニーズに沿った人材を養成するために、国内の経営系専門職大学院の機能強化に資する参考情報を収集することを目的に実施しています。

経営系専門職大学院、経営系大学院とは？

高度経営人材を育成するための大学院で、英語では「ビジネススクール」に相当する。
修了生には、経営学修士(MBA)、技術経営修士(MOT)などの学位が授与される。

貴社の概要についてお伺いいたします。

Q1 貴社の従業員数を教えてください。 (〇は1つ)

- | | | |
|-----------|-------------|-----------------|
| 1. 1-10人 | 4. 51-100人 | 7. 501-1,000人 |
| 2. 11-30人 | 5. 101-300人 | 8. 1,001-5,000人 |
| 3. 31-50人 | 6. 301-500人 | 9. 5,000人以上 |

Q2 貴社の資本金を教えてください。 (〇は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 1千万円以下 | 4. 1億円超～3億円以下 |
| 2. 1千万円超～5千万円以下 | 5. 3億円超 |
| 3. 5千万円超～1億円以下 | |

Q3 貴社の本社所在地(都道府県)を教えてください。

都・道
府・県

Q4 貴社の業種をお知らせください。 (〇は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 農業、林業、漁業 | 11. 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 2. 鉱業、採石業、砂利採取業 | 12. 宿泊業、飲食サービス業 |
| 3. 建設業 | 13. 生活関連サービス業、娯楽業 |
| 4. 製造業 | 14. 教育、学習支援業(大学含む) |
| 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 15. 医療、福祉 |
| 6. 情報通信業 | 16. 複合サービス事業 |
| 7. 運輸業、郵便業 | 17. サービス業(他に分類されないもの) |
| 8. 卸売業、小売業 | 18. 公務(他に分類されるものを除く) |
| 9. 金融業、保険業 | 19. その他() |
| 10. 不動産業、物品賃貸業 | |

Q5 上場の有無をお知らせください。 (〇はいくつでも)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 未上場 | 4. マザーズ |
| 2. 東証1部 | 5. JASDAQ |
| 3. 東証2部 | 6. その他() |

Q6 貴社の海外展開の状況について教えてください。

(〇はいくつでも)

1. 製造拠点が海外にある
2. 研究開発拠点が海外にある
3. 販売拠点が海外にある
4. 代理店を通じて、海外市場や海外の顧客に商品・製品を販売している
5. ほとんど国内向けのビジネス
6. その他()

貴社における中核人材について

Q7 貴社では、経営や各種事業、研究開発などの中核となる人材の能力開発のためにどのようなことを実施していますか(制度や研修等)。

特に重視している能力開発の方法を3つまでお答えください

(〇は3つまで)

1. OJT を通じた教育訓練を実施
2. Off-JT(集合研修や通信教育など) を通じて社内で教育訓練を実施
3. ジョブローテーション(財務、経営企画、海外等、中核人材として必要な部門を経験)
4. 早い段階でリーダー(候補)に指名
5. 経営会議への同席等、経営感覚が身につくような機会を与える
6. 外部企業のセミナー、研修(もしくは社外講師を招聘)
7. 大学院、ビジネススクールへの学生派遣
8. 自己啓発の推奨・補助
9. 自社以外の外部から人材を採用
10. その他()
11. 特に行っていない

Q8 貴社では、経営や各種事業、研究開発などの**中核となる人材**に対して、どのような能力を重視していますか。
(中核人材に最低限どのような能力を求めていますか) (○は1つずつ)

		重視している	まあ重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない
1	実務経験・実績	5	4	3	2	1
2	経営戦略や人的資源管理、会計、ファイナンス、テクノロジー・マネージメントなど企業経営に必要な一通りの理論や知識の習得	5	4	3	2	1
3	リーダーシップ	5	4	3	2	1
4	コミュニケーション能力	5	4	3	2	1
5	交渉力	5	4	3	2	1
6	プレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
7	戦略思考能力	5	4	3	2	1
8	問題解決力	5	4	3	2	1
9	創造性	5	4	3	2	1
10	分析思考能力	5	4	3	2	1
11	組織マネージメント力(人的資源管理を含む)	5	4	3	2	1
12	情報統合能力	5	4	3	2	1
13	倫理的行動力	5	4	3	2	1
14	技術情報などを商品化・実用化・事業化につなげる能力(実現能力)	5	4	3	2	1
15	ビジネスモデル(ビジネスプラン)作成能力	5	4	3	2	1
16	調査技能・評価能力	5	4	3	2	1
17	知財能力(マネージメント・活用力を含む)	5	4	3	2	1
18	産学連携から施策等を構築する力	5	4	3	2	1
19	システム設計力(デザインシンキング)	5	4	3	2	1
20	異文化への対応力(ネットワークを含む)	5	4	3	2	1

Q9 前問以外で、中核人材に求めている能力・スキルはありますか。

Q10 貴社では、経営や各種事業、研究開発などの中核となる人材の能力開発のために社外の人材育成機関を利用していますか。

(〇は1つ)

- | | | |
|--------------------------|---|------|
| 1. 積極的に利用している | } | Q11へ |
| 2. 必要に応じて利用している | | |
| 3. 利用したことはあるがほとんど利用していない | } | Q12へ |
| 4. 利用したことがない | | |

Q11 中核人材の能力開発に当たって、社外の人材育成機関を利用されている方にお伺いいたします。

社外の人材育成機関は、どのような能力開発を目的として利用していますか。(〇はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 経営戦略や人的資源管理、会計、ファイナンス、テクノロジー・マネージメントなど企業経営に必要な一
通りの理論や知識の習得 |
| 2. リーダーシップ |
| 3. コミュニケーション能力 |
| 4. 交渉力 |
| 5. プレゼンテーション能力 |
| 6. 戦略思考能力 |
| 7. 問題解決力 |
| 8. 創造性 |
| 9. 分析思考能力 |
| 10. 組織マネージメント力(人的資源を含む) |
| 11. 情報統合能力 |
| 12. 倫理的行動力 |
| 13. 技術情報などを商品化・実用化・事業化につなげる能力(実現能力) |
| 14. ビジネスモデル(ビジネスプラン)作成能力 |
| 15. 調査技能・評価能力 |
| 16. 知財能力(マネージメント・活用力を含む) |
| 17. 産学連携から施策等を構築する力 |
| 18. システム設計力(デザインシンキング) |
| 19. 異文化ネットワーク力 |
| 20. その他() |

貴社における修士・博士・経営系の専門職学位(MBA・MOTなど)取得者の状況について

Q12 貴社の経営系大学院の学位(修士・専門職学位(MBA・MOTなど))や博士号(学位を問わない)取得者の状況を教えてください。また、貴社において、それぞれの学位取得者は5年前と比べて増えていますか？

※概算の人数でかまいません。

※複数の学位・博士号を取得されている方がいらっしゃる場合は延べ人数でお答えください。

			人数(実数)	学位取得者の傾向			
1	MBA	国内大		→	1.増えている	2.変わらない	3.減っている
2		海外大		→	1.増えている	2.変わらない	3.減っている
3	MOT	国内大		→	1.増えている	2.変わらない	3.減っている
4		海外大		→	1.増えている	2.変わらない	3.減っている
5	博士号 (学位は問 わない)	国内大		→	1.増えている	2.変わらない	3.減っている
6		海外大		→	1.増えている	2.変わらない	3.減っている
7	上記の学位を取得している人はいない			→	Q17へ		
8	いずれも把握していない			→	Q17へ		

Q13 前問でお答えいただいた学位取得者数は、下記のそれぞれのうち、どのくらいの割合を占めていますか。

※ここでのいう全社従業員は経営者・役員を含めてお答えください。

	全社従業員の内	経営者・役員・部長等の幹部クラスの内
MBA	%	%
MOT	%	%
博士号	%	%

Q14 貴社では、経営系大学院の学位取得者に対して、学部卒生と比較して、処遇(給与や職位・配置)に差を設けていますか。(〇は1つ)

1. 設けている	2. 設けていない	3. わからない
----------	-----------	----------

前問で「処遇(給与や職位)に差を設けている」と答えた方に伺います

Q15 経営系専門職大学院/経営系大学院の学位取得者に対しては、どのような処遇を設けていますか。(学部卒の方と比較を踏まえてお答えください) (〇はいくつでも)

1. 経営管理部門に配置	5. 給与や手当に反映
2. なるべく希望の部署に配置転換させる	6. 責任ある仕事を任せようにする
3. 人事評価での加点	7. その他()
4. 昇進・昇級	8. 特に処遇の差は設けていない

- ※国内の経営系大学院(MBA・MOT等)を修了した経歴を持つ社員の方に対する評価についてお伺いいたします。
 Q16 国内の経営系大学院(MBA・MOT等)を修了した経歴を持つ社員の方全般の知識・業務遂行能力は、同年齢・同役職の方と比較してどのように感じますか。(〇は1つ)

1. 経営系大学院(MBA・MOT等)を修了した経歴を持つ従業員の方が優れている
2. ほぼ同等(特に変わらない)
3. 経営系大学院(MBA・MOT等)を修了した経歴を持つ従業員の方が劣っている
4. わからない
5. 国内の経営系大学院(MBA・MOT等)を修了した経歴を持つ社員はいない

経営系専門職大学院・経営系大学院への認識・期待

- Q17 会社として経営幹部の方や従業員の方を、経営系専門職大学院・経営系大学院へ派遣した実績はありますか。国内の大学院、海外の大学院のそれぞれについてお答えください。

【国内の経営系専門職大学院・経営系大学院】

(〇はいくつでも)

1. 正規のプログラム(学位を取得可能)に定期的に派遣している
2. 正規のプログラム(学位を取得可能)に派遣したことがある
3. 学位の取得はできない短期コースなどのプログラムに定期的に派遣している
4. 学位の取得はできない短期コースなどのプログラムに派遣したことがある
5. その他()
6. 経営系専門職大学院・経営系大学院へ派遣したことはない

【海外の経営系大学院(ビジネススクール)】

(〇はいくつでも)

1. 正規のプログラム(学位を取得可能)に定期的に派遣している
2. 正規のプログラム(学位を取得可能)に派遣したことがある
3. 学位の取得はできない短期コースなどのプログラムに定期的に派遣している
4. 学位の取得はできない短期コースなどのプログラムに派遣したことがある
5. その他()
6. 経営系専門職大学院・経営系大学院へ派遣したことはない

- Q18 経営系専門職大学院/経営系大学院で学ぶ従業員に対して、企業として何かしらの支援・サポートを行っていますか。

(〇はいくつでも)

1. 受講費用の全額を補助している
2. 受講費用の一部を補助している
3. 就学期間を長期休暇(有給)をとれるようにする
4. 就学期間に長期休暇(無給)をとれるようにする
5. 授業のある時間帯は、早退を許す、休めるようにするなどフレキシブルな労働時間とする
6. 就学期間中の転勤や出張を抑制する
7. 仕事の割振り等を配慮する
8. 学習しやすい部署へ異動させる
9. 大学院に通学していることを公言しづらい雰囲気をつくす
10. 大学院への通学が原因で、評価を下げるなどの不利益がないことを確約する
11. 大学院等の情報を従業員に提供する
12. その他()
13. 特に何の支援も行っていない

経営系専門職大学院/経営系大学院に対する期待をお伺いいたします。

- Q19 経営系専門職大学院/経営系大学院にどのような人材を養成して欲しいと思いますか。
特に養成して欲しい人材を3つまでお選びください。

(○は3つまで)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ゼネラルマネージャー(事業経営者) 2. 特定分野のスペシャリスト 3. 経営層の視点から研究開発の推進を行える人材(技術経営人材) 4. イノベーション人材(新たな市場、イノベーション、アイデアなどを創出する人材) 5. グローバル人材(グローバル化・国際競争力の向上に貢献できる) 6. その他() 7. 特になし |
|---|

- Q20 国内及び海外の経営系専門職大学院/経営系大学院に対する評価・期待をお伺いいたします。
経営系専門職大学院/経営系大学院において、貴社の求めるような人材を養成できていると思いますか。
また、養成できると期待していますか。

<国内>

<海外>

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価・期待している 2. まあ評価・期待している 3. どちらともいえない 4. あまり評価・期待していない 5. 評価・期待していない 6. わからない | <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価・期待している 2. まあ評価・期待している 3. どちらともいえない 4. あまり評価・期待していない 5. 評価・期待していない 6. わからない |
|---|---|

- Q21 経営系大学院に対する評価・期待は、5年前と比べて変わりましたか。

<国内>

<海外>

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価・期待が高まった 2. 評価・期待は変わらない 3. 評価・期待が低くなった 4. わからない | <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価・期待が高まった 2. 評価・期待は変わらない 3. 評価・期待が低くなった 4. わからない |
|---|---|

- Q22 国内の経営系専門職大学院/経営系大学院に対する評価の要因について具体的にご記入ください。
また、海外大学院との評価や期待の違いについて具体的にご記入ください。

Q23 貴社の経営幹部の方や従業員の方が、経営系専門職大学院/経営系大学院で学ぶことについてどのような見解をお持ちですか。

(〇は1つ)

- | | | |
|-----------------------|---|------|
| 1. 推奨している | } | Q25へ |
| 2. 推奨はしていないが、良いと思う | | |
| 3. どちらともいえない(人や内容による) | } | Q24へ |
| 4. あまり良いとは思わない | | |
| 5. 原則認めていない | | |

※前問で経営系専門職大学院/経営系大学院で学ぶことについて、「どちらともいえない」「あまり良いとは思わない」「原則認めていない」と回答された方にお伺いいたします。

Q24 経営系専門職大学院/経営系大学院で学ぶことを推奨していない理由は何ですか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|--|---|
| 1. 社内で十分に育成が可能 |) |
| 2. 経営系大学院の修了生か否かで能力の違いを感じない | |
| 3. 就学中の本業に与える影響が大きい | |
| 4. 費用負担ができる余裕がない | |
| 5. 大学院以外でも学ぶ場がある | |
| 6. 経営系大学院で学ぶことで、具体的にどのような効果があるかよくわからない | |
| 7. どのようなことを、どのように学ぶのかなど、具体的な内容がよくわからない | |
| 8. その他(| |

Q25 国内の経営系大学院の教育課程(プログラム)の編成に対する期待はありますか。特に期待する点を3つまでお選びください。

(〇は3つまで)

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 最先端のテーマを取り扱っている |) |
| 2. 企業等出身の講師や実務の最先端の講師による講義、企業等と連携した授業 | |
| 3. 成長が見込まれる市場・分野のカリキュラムの編成 | |
| 4. 特定の分野を深く追求する研究・学習が可能な内容 | |
| 5. 幅広い仕事に対応した知識・能力の学習が可能な内容 | |
| 6. 国際的な視点を踏まえた内容 | |
| 7. 時間的に無理のない編成 | |
| 8. 産業界(企業)のニーズを踏まえたカリキュラム・テーマ設定 | |
| 9. 地域のニーズ(産業集積など)を踏まえたカリキュラム・テーマの設定 | |
| 10. 学生の所属する組織の問題を解決する研究・学習が可能な内容 | |
| 11. 修士(専門職学位)論文の作成を通じた高い知識・能力の習得 | |
| 12. シラバス(講義の概要・計画)が具体的に設定されている | |
| 13. その他(| |
| 14. 特になし | |

Q26 経営系専門職大学院/経営系大学院で最低限教育してもらいたい科目は何ですか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1. 統計学 | 19. マーケティング・リサーチ |
| 2. ビジネス・エコノミクス | 20. サービス・マネージメント |
| 3. マクロ経済学 | 21. 流通システム |
| 4. ミクロ経済学 | 22. 消費者行動論 |
| 5. 心理学 | 23. 観光マネージメント |
| 6. 社会学 | 24. 財務会計 |
| 7. 国際関係論 | 25. 管理会計 |
| 8. 政治学 | 26. ファイナンス |
| 9. 倫理学 | 27. M&A |
| 10. 経営戦略 | 28. オペレーションズ・リサーチ |
| 11. 国際経営 | 29. 生産管理 |
| 12. 組織マネージメント | 30. サプライチェーン・マネージメント |
| 13. ゼネラルマネージメント | 31. IT戦略 |
| 14.アントレプレナーシップ | 32. 事業再生 |
| 15. テクノロジー・マネージメント(知財戦略を含む) | 33. 環境経営 |
| 16. リーダーシップ | 34. CSR |
| 17. ヒューマンリソース・マネージメント | 35. その他() |
| 18. マーケティング | 36. わからない/特になし |

Q27 国内の経営系大学院で学びやすい教育環境の整備に対する期待・要望はありますか。

特に期待・要望する点を3つまでお選びください。

(〇は3つまで)

- | |
|---|
| 1. 夜間・週末開講 |
| 2. サテライトキャンパスや遠隔授業の設定 |
| 3. 短期コース設置 |
| 4. 長期履修制度の設置 |
| 5. メディアを利用して行う授業(オンデマンド等)の設定 |
| 6. 科目等履修制度*の設定 *正規入学せずに、希望する講義を1科目から受講できる制度 |
| 7. 休学等に対する柔軟な対応 |
| 8. その他() |
| 9. 特になし |

Q28 経営系専門職大学院/経営系大学院では、例えば、執行役員クラスに対象者を限定したプログラム(主に短期コースで、企業経営をするために必要な経営の諸要素を集中的に学ぶ)を提供しているケースがあります。(多くの場合正規のプログラムと異なり学位の取得はできない)

貴社における中核人材の能力開発で、このようなプログラムを利用したいと思いますか。

(〇は1つ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 既に利用している | 4. あまり利用したくない |
| 2. ぜひ利用したい | 5. 利用したくない |
| 3. まあ利用したい | 6. わからない |

Q29 国内の経営系専門職大学院/経営系大学院との連携状況について教えてください。(〇はいくつでも)

1. 定期的に学生派遣を行っている
2. 教員として社員を派遣している
3. ゲストスピーカーとして社員を派遣している
4. 大学院・教員などと意見交換の場を設けている
5. インターンを受け入れている
6. 大学院の教員を社内教育の講師として招聘している
7. 共同研究を行っている
8. 大学院のケーススタディの教材として情報を提供している
9. 事務所や工場の見学を受け付けている
10. 修了生を採用するなどのリクルート活動を行っている
11. その他()
12. 特に行っていない

Q30 経営系専門職大学院/経営系大学院の評価にあたって、第三者(評価機関)による認証の有無や評価内容を参考にしていますか。

(〇は1つずつ)

		参考にしている	まあ参考にしている	どちらともいえない	あまり参考にしない	参考にしない
1	AACSBやEFMDなどの国際的な評価機関からの認証	5	4	3	2	1
2	日本国内の認証機関からの評価 (文部科学大臣による認証を受けた大学基準協会、ABEST21など)	5	4	3	2	1

AACSB(The Association to Advance Collegiate Schools of Business)およびEFMD(European Foundation for Management Development):
マネジメント教育の国際的な認証評価機関

Q31 ビジネススクールランキングに関心がありますか。

(例: Financial Times 誌 世界MBAランキングなど)

(〇は1つ)

1. 関心がある(強く意識している)
2. 関心はあるが参考にする程度
3. あまり関心はない
4. 全く関心はない
5. わからない

理由

Q32 国内の経営系専門職大学院/経営系大学院に対しての要望・意見がありましたらご自由にご記入ください。

資料

会社名	
部署	
住所	
電話番号	
メールアドレス	
回答者氏名	

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。